

トラックを起因物とするはさまれ巻き込まれの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	1	16～18	事業場資材置き場において、作業員が、トラックをダンプアップして、荷台上の廃棄物を、一度にコンテナに入れることにした。作業員が、運転席に座らず、地上からエンジンのキーを回したところ、ギアがバックギアになっており、サイドブレーキの引きが甘かったため、トラックが後ろに急発進し、トラックとコンテナの間にいた被災者が挟まれた。	30209	10～29
2021	1	12～14	建設現場において、二次下請業者に依頼された燃料小売業者が、ドラグ・ショベルに給油するため、現場に入場し、ドラグ・ショベルの近くで給油車を停車させた。給油車の運転手が、ドラグ・ショベルに向かって移動したところ、給油車が被災者に向かって勝手に後退し、運転手は避けきれずに、ドラグ・ショベルのクローラと給油車に挟まれ、死亡した。給油車が停車した位置は、傾斜になっていた。	80204	1～9
2021	1	16～18	事業場敷地内にて、被災者が一人作業で10tダンプトラックの点検・整備を、当トラックのキャビン（運転席部分）を当トラック備え付けのキャビン部分の昇降装置を使用して上げ、その下に入って行っていたところ、下がってきたキャビンと車体（エンジンルーム）の間に挟まれたもの。	20202	10～29
2021	2	0～2	納品先の店舗敷地内において、納品終了後、被災者が運転してきた2tトラックと壁の間に挟まれ、頭部を強く圧挫し死亡したもの。	40301	10～29
2021	2	8～10	被災者は1tトラックで配送作業中、勾配のある道路に配送車両を駐車し、降車したところ、トラックが坂を下り始めたことに気づき、それを止めるためトラックの進行方向に回り込み、トラックに轢かれたもの。	10109	10～29
		4	被災者は配送先に荷を運搬するにあたり、出発地点である本件事業場の車庫		

2021	3	～ 6	に来て、同車庫の所定の位置に停めていた本件トラックを傾斜のある車庫出入口付近まで動かした。その後、被災者は、本件トラック運転席ドアと車体との間に挟まれた状態で発見された。	40301	10～ 29
2021	4	～ 12	午後、配達のために被災場所を訪れた者が、12tのタンクローリーと2tのタンクローリーの間で両手を上げ、左わき腹が挟まれている状態であった。	170209	50～ 99
2021	4	～ 14	被災者は、市道に駐車していた事業場の車両（トラック、最大積載2t）のタイヤ交換のため、車両の位置を動かそうとしたがキーがなかったことから、1人で車輪付きのジャッキを使用し車両を動かそうと車体前方を持ち上げた際に、坂道に駐車されていたため車両が動き出し、車両に轢かれ下敷きとなり死亡したものの。	30199	10～ 29
2021	5	～ 12	道路の拡幅工事において、被災者は交通誘導を行っていた。残土排出のため後進してきた4tトラックに轢かれたもの。離れた位置で作業していた作業員が轢かれた被災者を発見し、運転手に停車を促した。その後、被災者は病院へヘリ搬送されたが死亡したものの。	170201	10～ 29
2021	5	8 ～ 10	左前輪及び左後輪が脱輪したパッカー車の救助作業中、パッカー車と地面との間に胸部がはさまれたもの。ジャッキを使用して、車体を持ち上げ、左側のタイヤの下に枕木をかました後、後輪付近にベルトをかけ、ガッチャ（荷締機）で右側にスライドさせる作業中であった。	11701	10～ 29
2021	5	～ 14	新築工事現場において掘削した土砂を碎石場まで被災者が2tトラックで運搬していた。6回目の運搬時、碎石場において、被災者がトラックを事務所外に停車させ降車し、事務所内において伝票作成の待機中、トラックが前方に動き始めたため、事務所を飛び出しトラックの前方でトラックを止めようとしたところ止めきれず無人のトラックに轢過され死亡したものの。	30209	1～9
2021	7	14 ～ 16	ガス管の布設工事に伴う片側交互通行の工事現場において、路盤材を積み込んだ3tダンプトラックの後退に当たり交通誘導業務を行っていたところ、当該ダンプトラックの右後輪に轢かれたもの。被災者は病院に救急搬送されたものの、死亡した。	170201	50～ 99

2021	7	12 ～ 14	傾斜約 6 度の下り坂に停車させていた貨物自動車（最大積載荷重 3 トン） が、無人の状態の下り坂を自走し始め、下り坂の下方に停車してある普通乗 用車と接触しそうになったため、当該貨物自動車と普通乗用車の間に入り、 貨物自動車を止めようとしたところ、受けきれず、貨物自動車と普通乗用車 の間に挟まれたもの。	150103	10～ 29
2021	7	8 ～ 10	被災者が停車している 3 t ダンプと 4 t ダンプの間に立っていた際、同僚が 4 t ダンプに乗車して運転し後退させたため、被災者が 3 t ダンプと 4 t ダ ンプの間にはさまれ、2 日後に死亡したもの。	80109	1～9
2021	7	10 ～ 12	民家敷地にコンクリート製擁壁を設置する工事現場において、車両積載型ト ラッククレーンが、荷の積載作業が終了した後、傾斜した道路を無人で後退 して道路脇のガードレール等に衝突し、巻き込まれた被災者が発見されたも の。	30199	10～ 29
2021	8	16 ～ 18	幼稚園・体育館改修工事、外構工事において、作業員がコンクリートミキ サー車後方で作業中、コンクリートの搬入を終え場外に移動するため後退し たコンクリートミキサー車左後輪に巻き込まれ被災したもの。	30309	1～9
2021	8	14 ～ 16	被災者は物流センターの倉庫で荷積みが完了したコンテナを出荷待ちのコン テナ置き場へ移動させる作業をしていた。被災者はトレーラーヘッドを荷積 完了のコンテナに近づけ、運転席から降りて、トレーラーヘッドとコンテナ を接続した。そうしたところ、トレーラーヘッドとコンテナが前方へ動き出 したため、被災者はトレーラーヘッドの前方へ回り込み手で押して止めよう としていたが、押し倒されてトレーラーヘッドに轢かれたもの。	40301	50～ 99
2021	8	10 ～ 12	被災者は 10 トントラックの点検整備を行うため、エア式トラックジャッ キを用いて車両前方及び助手席側後方の車体を上げ、車体シャーシ部に数本 支え棒を入れたうえ車体下部に潜り込んでいたところ、車体がジャッキ支点 から滑動して落下し、後輪トルクロッド部に胸部を挟まれ、重症胸部外傷に より死亡した。	80202	1～9
2021	9	8 ～	10 トンダンプトラックの始業点検を行っていた当該ダンプの運転手が、逸	10804	10～

		10	走した当該ダンプを止めようとして当該ダンプの左前輪に巻き込まれた。		29
2021	9	14 ～ 16	被災者は最大積載量 2 t のダンプトラックを用いて、事業場の土捨て場から道路建設工事の現場まで土砂を運搬していたが、同現場においてダンプトラックのキャビン後部（左側）と荷台の鳥居部分の間に下半身をはさまれている状態で発見された。	30106	10～ 29
2021	9	10 ～ 12	被災者が給食センターの敷地内でゴミ拾い業務を行っていたところ、敷地内に保管された牛乳パックの回収業務を行うために別の事業場の労働者が運転、後進させていたトラック（最大積載量：1 5 0 0 キログラム）にひかれ、死亡したもの。なお、被災者の所属事業場は別の場所にあるが、給食センターに直接出勤し、作業後に帰宅する作業形態であった。	150101	300 ～ 499
2021	10	10 ～ 12	事業場構内原石運搬道路において、碎石場に向かっていた大型ダンプ（以下「ダンプ」という。）が故障により立ち往生した。これにより、後続していた乗用車（社有車で同社の労働者と被災者が乗車）が前進できず、ダンプ後方に停車させ、2 名は乗用車から降り、徒歩で作業現場に向かおうとした。その時、突然ダンプが後退し、歩いていた 2 名のうち被災者がダンプの下敷きとなった。	20209	50～ 99
2021	10	4 ～ 6	被災者が運送業務出発前にトラクタ（牽引車）とトレーラー（被牽引車）を連結させたところ、当該連結車両が無人の状態で行進したため、被災者はこれを止めようとして当該連結車両とガードレールの間に挟まれたもの。その後、近接する工場の守衛が車両とガードレールの間に挟まれた被災者を発見し救急通報、病院に搬送されるも死亡が確認された。	40302	10～ 29
2021	11	12 ～ 14	碎石会社の残土置き場にて、被災者は一人で、最大積載荷重 9. 4 トンダンプトラックの荷台を上げ、荷台と車台フレームの間にグリースアップ作業を行っていた。被災者は荷台降下防止のための安全棒を立てず、ダンプレバーを固定しないまま作業を行っていたところ、何らかの原因で荷台が降下し、荷台と車台フレームの間に挟まれ死亡した。なお、一人作業のため災害発生状況及び時間は推定である。	10909	1～9

2021	11	6 ～ 8	被災者は、工事現場へ向かう途中、自らの運転するダンプAを駐車場に駐車し、ダンプAの前方で工事用の幕の取付けまたは取外し作業していたところ、B社の運転手の運転するダンプBが、ダンプAの前方に駐車のために後進した時、ダンプAに接近しすぎたため、ダンプ間に挟まれたもの。	40301	1～9
2021	11	12 ～ 14	被災者は、事業場内の荷の積卸を行うゲート内にて、貨物自動車へ荷積み作業を実施していた。同ゲートのプラットホームと貨物自動車の間で倒れているのを発見されたもの。災害発生当時、同車は高さ調整のために後輪を乗せていた木製スロープ台から落ちて後方に移動しており、ギヤはニュートラルで、サイドブレーキは十分にかかっていなかった。被災者の死体検案書には死亡の原因に胸背部打撲による胸部狭圧と診断されている。	40301	30～ 49
2021	12	10 ～ 12	被災者はごみ収集のため、収集先敷地内に設置された倉庫前に塵芥車を停車し、ごみ収集作業を行ない終え、倉庫の扉を閉めていたところ、無人の塵芥車が倉庫に向かって後進してきたため、被災者が塵芥車と倉庫の間にはさまれたもの。	150103	1～9
2021	12	8 ～ 10	被災者は、交通誘導員として同僚が運転するヒアブ車（クレーン付き8t貨物トラック）に同乗し、鉄くずを回収するため廃品回収業者（被災地）へ向かった。鉄くずをトラックに積み終え、会社に戻るため廃品回収業者の敷地から市道へ出ようとするヒアブ車の誘導を行っていたところ、後退してきたヒアブ車の右後輪に骨盤から左下肢を轢かれた。その後入院治療中であったが死亡したもの。	80109	10～ 29
2020	1	10 ～ 12	被災者が運転するダンプトラックが工事で発生した土砂を現場から搬出する際にタイヤに付着した泥等を落とすために設置されているタイヤ洗浄機上で停車させ、タイヤ洗浄機が異常停止したため、下車して操作盤のところへ行き再起動させたところ、ダンプトラックが動き出し、これを止めようとしたが前輪に巻き込まれて轢かれた。	40301	1～9
2020	1	12 ～	ゴミ集積場所付近の路上に機械式ごみ収集車を停車させ、テールゲートの回転板を連続回転させながら、被災者が一人で一般ごみ（燃えるごみ）の回収作業を行っていたところ、テールゲートホッパー内に身体の一部が入り込	150102	10～

		14	み、回転板に全身を巻き込まれ死亡した。なお、機械式ごみ収集車には、非常停止装置が設けられていた。		29
2020	3	12 ～ 14	トレーラーでコンテナを輸送中、ブレーキに異常を感じたため道路の路肩に停車し、車外で復旧作業をしていた。その後、トレーラーの牽引台車右側後輪にうつ伏せの状態で見られているところを通行人に発見された。	40301	100 ～ 299
2020	3	16 ～ 18	トンネル掘削における発破作業に用いる火薬を運搬する車両が、切羽に向かって後進中、切羽付近で切羽の監視業務を行っていた被災者に接触し、被災したもの。	30102	1～9
2020	3	12 ～ 14	仮設の鉄骨構造物を移動するため、当該構造物の下に搬送台車を移動中、誘導者が構造物の梁と搬送台車の間に頭部を挟まれた。	11501	1000 ～ 9999
2020	4	14 ～ 16	被災者は、パッカー車（ゴミ収集車）で収集した古紙類を、古紙問屋である作業所で廃棄作業を一人で行っていたところ、パッカー車後部の圧縮板に頸部が挟まれ死亡したもの。	150102	50～ 99
2020	5	12 ～ 14	被災者は資源物回収のため、一人でパッカー車を運転していた。被災者は資源物回収を行うためパッカー車の運転位置から離れるときに、停止の状態を保持するためブレーキを確実にかける等の逸走防止措置を講じなかったため、勾配に沿ってパッカー車が動き出しそのまま民家に激突し、民家と接触したドアに挟まれた。病院に搬送されるも死亡した。	150103	1～9
2020	6	6 ～ 8	小型移動式クレーンの荷台に鉄筋を積んで現場に向かい走行中、急勾配の坂道で荷台後方が地面と接触して走行不能となったため、被災者が地上に降りて移動式クレーンを運転操作して荷の積み替え作業を行い、アウトリガーを戻したところ、車両が後退して車輪の下敷きとなった。	40301	10～ 29
2020	7	14 ～ 16	災害発生場所に事業所の水源地内において、次亜塩素酸ソーダの運搬及び圧送業務を請け負った運送会社の労働者が、11.9度の傾斜にタンクローリーを停車し、コンプレッサーを用いた次亜塩素酸ソーダの圧送作業を終えた後、圧送部分のホースを取り外すため車両を降りたところ、何らかの原因	40301	10～ 29

			で車両が動き出し、車両と門扉との間に身体を挟まれ、死亡した。		
2020	7	16 ～ 18	ゴミ収集車（パッカー車）で収集したゴミを焼却場ピットに投入した後、車両を前方に移動させ、床に落ちたゴミを清掃。その後、ゴミ収集車テールゲート内の回転板に上半身を挟まれた状態を隣のゴミピットで作業中の同業者に発見された。エンジンは掛ったままで回転板は停止していた。（床のゴミの清掃までは焼却場のカメラで確認。ゴミ収集車前方からの撮影のためテールゲート後方で挟まれる模様は映っていない）。	150103	30～ 49
2020	9	10 ～ 12	4トンドンプトラックの荷台を上げ、オイル交換作業を行っていたところ、荷台が降下し、車体と荷台の間に頭部を挟まれたもの。	150109	30～ 49
2020	9	8 ～ 10	被災者は電話工事の交通警備業務で同僚2名と現場近くに到着待機。工事業者がトラック（小型移動式クレーン装備）で到着し工事場所の180m先でトラック車体左半分を歩道上に乗り上げ後退した。後退中に通過車両があり一旦停止した。被災者は待機場所から一人でトラックまで来てトラック右後部付近に立ち入り通過車両を誘導（推定）。車両通過直後にトラックが再び後退を開始し死角で見えなかった被災者を右後輪で轢いたもの。	30301	10～ 29
2020	9	10 ～ 12	事業場敷地内に停車していた車両重量3090kgのトラックが突然逸走したところを目撃した被災者が、逸走したトラックに並走しながらトラック前方に向かって駆け寄ったところ、当該トラックとその前方にあるコンクリート壁との間に挟まれ、搬送先の病院で死亡した。当時、トラックには約800kgの荷が積まれた状態だった。	80109	10～ 29
2020	10	10 ～ 12	配送センターにおいて、10tトラック用バース（プラットフォーム高さ：1.3m）にて、4tトラック（種類：アルミバン、荷台高さ：1.0m）に荷の積み込みを終え、荷台後方でテールゲートを閉める作業中に、荷台とプラットフォームの高さ調整のために後輪下に設置していた台木（高さ：15cm）から後輪が落下したためトラックが後進し、トラックとプラットフォームとの間に挟まれたもの。	40301	30～ 49
			切羽監視員である被災者が抗口から50メートルの付近のトンネル坑内を切		

2020	10	14	羽に向かって歩行中、ズリ出しのため坑外からトンネル内に後退で進入してきた10トンダンプトラックに轢かれ被災したもの。坑内には、ズリ出しのためのベルトコンベアが設置されていたため、幅が狭く安全通路は確保されていなかった。	30102	50～99
2020	10	12 ～ 14	被災者が碎石を積載した2トントラックを傾斜地に停車させ、運転席を離れたところ、無人の当該トラックが前進し始めたため、制止しようと荷台に手を掛けたが振り落とされ、当該トラックの右後輪に轢かれたもの。	30201	1～9
2020	10	12 ～ 14	クラッチが故障したトラックをレッカー車で移動させるため、被災者がトラックの前輪の下に角材を挟み込んでトラック前部を浮かせ、トラック下部にレッカー車のけん引装置を固定しようとしたところ、当該トラックが動き出し、トラック前部とレッカー車後部に頭部を挟まれ、死亡したもの。	11701	30～49
2020	11	6 ～ 8	工場（作業員2人のみで一つの事業場に該当しない分工場）内において、パッカー車から廃棄物（段ボール）を排出後、上げていたテールゲートを運転席で操作して下降中であった。被災者は離れた位置で同車とは関係のない作業をしていたが、下降が一時停止した間に同車に接近し、車体左側から、荷箱後端とテールゲートとの隙間に体を差し入れた時にテールゲートの下降が再開したためはさまれたもの。	150102	30～49
2020	11	14 ～ 16	工場建屋外で作業員がトラックからエンジンを取り外すため、ガス溶断機でプロペラシャフトを切断したところ、後輪のサイドブレーキが効いていない状況となり、トラックが後方傾斜地に流れたことから、それを止めようとした被災者が巻き込まれ、トラックの左後輪に轢かれたもの。	80109	1～9
2020	12	10 ～ 12	構内において、トラック後部の扉を開けようと、トラックに乗り込み前進しようとしたところ、車止めの取り忘れに気づき、エンジンを切らずにシフトをニュートラルにした状態で降車し、左前輪部の車止めを外したところ、輪部の路上が傾斜していたため動き出した。被災者は、トラックの前方にいたため、逸走したトラックに押され、前方に停車していた他車との間に挟まれて被災したもの。	40301	100～299
		16			

2020	12	～ 18	被災者は、トラックで運び込んだ金属を現場に降ろした後、荷台の後ろ扉を閉める作業中に荷台端部分との間に頭部が挟まれ死亡したもの。	50101	10～ 29
2020	12	～ 16	生コンクリートプラントにおいて、配送を終えたコンクリートミキサー車が場内の洗車場にてミキサー内の洗浄を行っていた。被災者は、コンクリートミキサー車が停止している前方に配置されている排水溝の清掃作業を実施していたところ、ミキサーの洗浄を終えた運転手が洗車場からコンクリートミキサー車を前進させたため、コンクリートミキサー車にひかれたもの。	10901	30～ 49
2020	12	～ 10	被災者は、トンネル工事現場の交通誘導員として入場し、所定の作業場所である出入口付近に移動中であったところ、隧道内部より掘削した土砂の搬出作業により走行中のダンプと接触し被災したもの。	170201	50～ 99
2020	12	～ 10	被災者は、製造中のトラックに部品取付を行っていたところ、作業空間を作るため約45度起こしていたトラックのアームが下降し、シャーシとの間にはさまれ死亡したもの。	11502	10～ 29
2019	1	～ 4	被災者は、船内にコンテナを運ぶトレーラーの誘導係をしていたが、運転者が運転していたトレーラーを誘導（後方）していたところ、当該トレーラーの荷と被災者の後方に設置していたコンテナの間に胸部を挟まれて、倒れていた。近くで足巻き作業を行っていた同僚と運転手が倒れていた被災者に気付いた。被災者と運転者は、別事業場の労働者。	50202	100 ～ 299
2019	1	～ 10	ごみ収集車のホッパー内で塗装前作業の部品取外し等の作業中、運転席の横にいた同僚がホッパーを上昇させたため、内部の押し込み板が動き、被災者の首を挟み、被災したもの。	11502	10～ 29
2019	1	～ 16	被災者は、4トントラックのエンジンの整備のため、トラックのキャビンを開け整備していたところ、当該キャビンが下がり、はさまれた。病院へ搬送後死亡した。	11701	1～9
2019	3	～ 20	塵芥車の後方カメラ交換作業中、車体下のフレームに配線を取り付けようとしたところ、フレーム脇にあるエンジンから油圧発生器へ繋がる動力取り出し用シャフトに上半身の作業服が巻き込まれ窒息。	11701	10～ 29

2019	4	4 ～ 6	県道の路肩に停車した大型トラック（ウイングボディ）のわきで、被災者が あおりとガードレールに首を挟まれた状態で発見され、病院へ搬送された が、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。	40301	30～ 49
2019	4	14 ～ 16	学校のグラウンドで開催された交通安全教室において、歩行者が渋滞してい る道路（横断歩道ではない箇所）を横断した際にトラックにひかれるという 場面（題目「トラックの死角によって起きる事故」）を再現中、トラックの バンパーにしがみついていたスタントマン（被災者）がバンパーから手を離 したため、地面に落ち、トラック右後輪に巻き込まれたもの。災害発生7時 間後に、被災者は搬送先の病院で死亡した。	120109	1～9
2019	5	16 ～ 18	トラック運転手が、駐車場でトラックの積み荷の荷崩れ確認を行っていたと ころ、トラック荷台のステップに掛けていた足が、荷台ウイングの開閉ボタ ンに当たり、荷台のウイングが閉まり、頸椎を挟まれた。	40301	10～ 29
2019	5	12 ～ 14	道路の災害復旧工事現場において伐木材の搬出作業時、道路傾斜部（坂道） の上部にダンプトラック（4トン積）を停止させドラグ・ショベル（クレー ン仕様）による積込作業中、ドラグ・ショベルの運転席に乗り込もうとして いた被災者に向かって、無人のダンプトラックが坂道（勾配7.5度）を約 5メートル下り後進してきたため、ドラグショベルとダンプトラック後方に はさまれた。	30106	10～ 29
2019	5	6 ～ 8	被災者が、ごみ収集車を被災場所に停車させ、廃棄段ボールの収集作業を 行っていたところ、ごみ収集車が後進方向に逸走し、建物の壁とごみ収集車 にはさまれたもの。その後、入院していた病院にて誤飲性肺炎により死亡し た。	150103	1～9
2019	7	10 ～ 12	解体工事現場において、被災者が解体作業中にバックで移動してきた廃材搬 出用の4tトラックに轢かれ死亡したもの。	30209	1～9
2019	7	14 ～ 16	港内のフェリー乗り場駐車場において、駐車場に置かれていた中古車の輸送 のために進入していたカーキャリア（全長16.8m）が、後進していたと ころ、フェリー乗船車両（トラック）の誘導員を轢いたもの。	170209	30～ 49

2019	7	10 ～ 12	市道（傾斜路）において、被災者と同僚3名で法面の除草作業を行っていた。その際、刈り取った草を被災者がパッカー車に積み込むため運搬していたところ、何らかの原因で停車していたパッカー車が動き出し、当該パッカー車に被災者がひかれて死亡したものである。	30199	1～9
2019	8	10 ～ 12	被災者は、駐車場にてセミコンテナトレーラーのボディをコンテナを積載しているシャーシーに接続した後、接地しているシャーシーを切り離すハンドルを操作した。操作後、サイドブレーキが引かれていなかったセミコンテナトレーラーは自走を始めた。運転席に乗りこもうとしたところ、隣のコンテナとセミコンテナトレーラーとの間に挟まれたもの。	40301	10～ 29
2019	8	8 ～ 10	民家の敷地内において、労働者が仕出し配達業務中に、同社所有の小型貨物自動車の下に倒れている状態で発見され、2時間後、搬送先病院で死亡したもの。	140201	1～9
2019	9	22 ～ 24	路面補修工事において、廃材を運搬する大型ダンプを誘導中、バックしてきた大型ダンプに轢かれ死亡したもの。	170201	30～ 49
2019	9	14 ～ 16	散水車を使用して散水作業を行おうとしていた被災者と連絡が取れないため、別の作業を行っていた同僚が被災者を捜索したところ、開いた状態の散水車の運転席のドアと、散水タンクへ給水するためのホースを支持する鋼製支柱との間に胸部がはさまれた状態の被災者を発見した。	20201	10～ 29
2019	9	20 ～ 22	被災者が構内で、低速で走行してきたトラックの前輪にひかれ、2～3mひきずられたもの。病院に搬送されたが翌日に死亡したもの。	40301	100 ～ 299
2019	10	10 ～ 12	マンションのごみ集積場所付近の路上に機械式ごみ収集車を停めて、テールゲートの回転板を連続運転させながら、プラスチックごみの回収作業を実施していたところ、テールゲートホッパー内に身体の一部が入り込み、頭部から回転板に巻き込まれ死亡したもの。	150102	10～ 29
		16	配送先の倉庫にて、従業員が帰宅するためトラックヤードの近くを通りか		100

2019	10	～ 18	かったところ、停車しているトラックの後ろに人の腕だけが見えた。不審に思い事務所に戻り、その旨を報告し、建物側から確認したところ、トラックの荷台とバース端のクッション材に挟まれている被災者を発見したもの。	40301	～ 299
2019	11	16 ～ 18	港の駐車場において、タンクローリー（4 t 車）のエンジンをかけ、ギアチェンジしたところ、ギアの状態に不具合が認められたため、運転席から離れて、当該車両の下にもぐり込み、ハンマーでギアボックスを叩いたところ、車両が動き出し、車両の下にいた被災者が轢かれ、死亡した。	80204	1～9
2019	11	8 ～ 10	1人で貨物自動車を運転して廃棄物の集積作業をしていた被災者が、病院棟地下1階の置場から廃棄物を回収する際、そこにいた工事車両の搬出を待つため付近の坂の傾斜10度の地点に貨物自動車を停車させたが、ギヤをニュートラルとし、サイドブレーキを完全に引かなかったため、降車後、貨物自動車が逸走し始め、それを咄嗟に止めようとして進行方向に立ちはだかり胴体を左前輪で轢かれ死亡した。	150102	100 ～ 299
2019	12	10 ～ 12	被災者が、木造家屋建設工事現場にミキサー車を停車し、当該現場において、基礎コンクリートの打設作業が行われていた。打設作業終了後、被災者がミキサー車を停車位置から4 m程前進させ、エンジンを停止させず、サイドブレーキも使用しない状態で運転席を離脱したところ、後方にミキサー車が逸走した。逸走に気づいた被災者が、ミキサー車後方から人力で押し返そうとしたが、ミキサー車とポンプ車にはさまれた。	10901	10～ 29
2018	1	20 ～ 21	運輸支店敷地内において、荷主事業場より集荷した荷物の搬入を行うため、大型トラック（最大積載量9.6 t（以下、「トラック」という。））を、荷卸し場（以下、「プラットホーム」という。）に着けようと後退させたところ、プラットホームの下にいた被災者が、トラック荷台後部とプラットホームの間に胸部を挟まれた。	40301	50～ 99
2018	1	16 ～ 17	事業場敷地内において、パワーゲート付きトラックから塵芥車にゴミを移し替える作業を行うため、塵芥車の後部とトラックの後部を向い合せにし、塵芥車の回転板を回転させた。その直後、被災者がパワーゲート上で足を滑らせ、塵芥車の投入口に上半身が落ちたところに回転盤が降りてきたため、頭	150103	10～ 29

			部を挟まれて死亡した。		
2018	2	10 ～ 11	建設途中のトンネル坑内（幅員１０ｍ）において、坑口より約４６ｍの地点で、ずりの積み込みのためバックで切羽方向に進んでいた１０ｔダンプトラックに、ずり出し作業員ではない労働者が立ち入り轢かれ、搬送先の病院で死亡したもの。	30102	10～ 29
2018	2	10 ～ 11	本社敷地内で、４トントラックで金属製品を工場建屋内に搬入するため、運転席側のドアを開けて後方確認をしながら後退したところ、工場出入り口の壁とトラックとの間に上半身を挟まれ、死亡したもの。	170101	30～ 49
2018	2	10 ～ 11	他の業者の工区から盛土材を運搬してきた１０ｔダンプを誘導していたところ、被災者の背面から現場内の盛土材を運搬していた４ｔダンプが後進してきて、当該ダンプに轢かれたもの。	30106	10～ 29
2018	3	10 ～ 11	被災者が１人でダンボールの回収作業を行っていたところ、ごみ収集車が前進し、ごみ収集車と門柱にはさまれたもの。	150102	30～ 49
2018	3	14 ～ 15	同営業所敷地内に駐車中の４ｔトラックが無人のまま逸走、後進し、同車両近くに居た被災者が同トラックの運転席と隣の車両のあおりとの間に挟まれ死亡した。単独作業で詳細不明であるが、逸走したトラックは、バッテリーが上がっていたため、被災者はその復旧のため、隣のトラックのバッテリーとブースターケーブルでつなぐための準備をしていたものと思われる。	80409	1～9
2018	4	8 ～ 9	荷主事業場の構内において、トラックからの荷卸作業（飼料の原料を荷台からホッパーに投入する作業）中、トラックの降下途中の可動式荷台と車体との間に胸部を挟まれたもの。	40301	10～ 29
2018	4	14 ～ 15	被災労働者は、解体工事現場において現場に隣接した公道（６ｍ道路最大傾斜６度）に車両後部を突き合わせて縦列駐車した２台のトラックの間に立ち、資材を搬入するための準備を行っていたところ、同僚が４トントラックを誤操作し４トントラックの後部荷台あおりと３トントラックの後部荷台あおりとの間に胸部を挟まれてしまったもの。	30209	1～9

2018	5	10 ～ 11	被災者は、同僚ら2名と共に、コンクリートミキサー車2台のドラム内部に付着したコンクリートを研る作業をそれぞれ行っていた。被災者の担当するコンクリートミキサー車のドラムが、逆回転していることに同僚が気づき、ミキサー車の廻りを確認したところ、被災者の眼鏡が落ちていたためドラムを緊急停止させた後、ドラム内部をのぞいたところ被災者がドラム内部の奥の方で丸くなって倒れているのを発見したもの。	40301	50～ 99
2018	5	14 ～ 15	県道道路維持工事で、側溝にたまった枯れ葉をドラグショベルにてすくい取り、ダンプに積み込む作業を行っていた際に、ダンプの運転手（被災者）がダンプを停めて、ダンプから降りてその周りで作業をしていたところ、下り坂によりダンプが逸走し、そのダンプを追いかけて乗ろうとする間に合わず、ダンプが側溝に落ち、擁壁とダンプに挟まれた状態となったもの。	30106	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	個人宅へ灯油を配送する業務を行っていた被災者が、タンクローリーに轢かれて死亡したもの。災害発生直前、タンクローリーは原動機を稼働させ、サイドブレーキをかけた状態で配送先宅前の坂道に停車させてあったものの、輪留めが使用されておらず、坂道の下方へと逸走したもの。被災者はタンクローリーの後部にいたため、轢かれた。	80204	1～9
2018	7	20 ～ 21	チルドセンターにてトラック（最大積載量2,850kg）から荷卸し後、荷台の後部扉を閉めるため、当該トラックを前進させ、運転席から降りた際、当該トラックが前方に向かって動き出し、トラックの前面部とコンクリート壁に挟まれ被災。	40309	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	被災者はダンプトラックの車体と荷台の間にはさまれているところを発見され、その場で死亡が確認されたもの。荷台下の車体にはモンキーレンチ2本があり、荷台上昇用油圧シリンダのホース接続部分は外れており、ダンプトラック周辺には作動油が飛散していた。なお、荷台フレームの安全棒が当たる面付近には、こすれた跡が残っていた。	40301	10～ 29
2018	8	2 ～	自動車IC追越車線（車線規制内）において、交通規制撤去作業中の被災者は、保安用資機材（カラーコーン）を積み込むために後退してきた2tトラック平ボディに轢かれた。なお、加害車両を運転していた者は、同じ事業場の	170201	30～ 49

		3	同僚である。		
2018	9	20 ～ 21	被災者は、1人で中型トラックの荷の整理を行っていた。当該トラックの荷台は、スイッチ操作で荷台左右の壁（以下、ウイング）が上下に開閉するもので、被災者は、当該ウイングをわずかに開き、ウイングと荷台あおりの隙間に上半身を入れて作業をしていたが、何らかの拍子にウイングが下がり、ウイングとあおりに胸腹部を挟まれて窒息死した。	40301	30～ 49
2018	9	8 ～ 9	破砕されたダンボールを手作業で圧縮式ごみ収集車に積み込む作業を行っていたところ、ホッパー内のプレスプレートに全身をはさまれたもの。	80109	10～ 29
2018	9	20 ～ 21	トンネル掘削の発破終了後、坑口から切羽方向に後進してきた2 tトラックに被災者が轢かれた。なお、2 tトラックの運転者は、防音扉外に退避していたが、発破終了後にずり出し用の大型ダンプに乗換えるため、2 tトラックを後退で運転していた。	30102	10～ 29
2018	10	12 ～ 13	家屋の解体工事現場において、瓦礫を積み込んだ3 t ダンプトラック（解体工事現場に隣接する勾配12°程の道路に、運転席を下り方向に向けて停車。）の荷台上で、作業員2名が廃木材とその他瓦礫との選別作業をしていたところ、突然、このダンプトラックが下り方向に動き出したため、被災者が、あおりから飛び降りてダンプトラック前方に回り込み、止めようとしたが、転倒して胸部を同ダンプトラックにひかれた。	30209	1～9
2018	11	16 ～ 17	被災者はトンネル坑口より約2 kmの地点で、切羽の吹付作業終了後にコンクリートポンプ車のホッパーの掃除をしていた。約5 m離れていた場所に停車していた無人のミキサー車が後進し、被災者はコンクリートポンプ車との間にはさまれ死亡したもの。ミキサー車を停車していた場所は7%の傾斜地であった。	30102	100 ～ 299
2018	11	14 ～	灯油販売用ローリー車でひとりで灯油を配達していた配達員が、客先の私道でローリー車を停車させ車外にいたところ、後退したローリー車もろとも約3 m崖下の民家敷地に転落した。転落後に自力で這い出した配達員は救急搬	80204	1～9

		15	送され、上半身圧迫による大動脈破裂のおそれや頭部裂傷のため入院加療するも、後日多臓器不全・大動脈乖離により死亡。配達員は転落時に地面又は崖とローリー車との間に挟まれたと思われる。		
2018	12	21～22	被災者は配送先に到着後、構内ホームに後進で5 tトラック（箱型冷蔵冷凍車）を停車し、荷卸しのために下車してトラックの後ろ扉を開けたところ、トラックが動き出してトラックとホームの間に挟まれ死亡したもの。	40301	10～29
2017	1	10～11	清掃作業員である被災者は、パッカー車の運転手と2人体制でごみの回収業務を行っていた。発生場所である高校の敷地内において、車を後退させて所定の場所に付けてごみの回収を行うため、被災者は後方で車の誘導を行った。所定位置に駐車後、被災者はごみの投入作業を開始した。運転手が被災者の作業を手伝うため、投入口に向かったところ、投入口の回転板に挟まれている被災者を発見した。搬送先の病院で死亡が確認された。	150103	50～99
2017	1	8～9	被災者は、事業場プラント内において、10 t ダンプトラックを運転し、碎石を運搬する作業を行っていた。同トラックの荷台に碎石を積んだ状態で、碎石でできた小山の斜面を後退させながら登っていたところ、被災者は運転席から地面に墜落し、無人状態で斜面を下ってきた同トラックの右側前輪及び後輪に胴体を轢かれ、被災した。	10901	10～29
2017	1	14～15	1階左官砂置場に2 t ダンプ車にて砂降ろし中、車を少し前方に移動するため運転席の外側からエンジンをかけたところ車が動き出し、工事用エレベータ1階乗場の単管足場と車のドアが接触、車のドアと運転席の間に肩から頭部にかけて挟まれた。	40301	10～29
2017	2	20～21	被災者は4トン車で支店に荷を搬送し、荷台後部をプラットホームに付けて荷降ろしを済ませたが、自社車両が逸走したため、前方に横付けしていた他社の大型トラックの側面と自社車両のフロント部の間に挟まれ、搬送先の病院で死亡が確認された。	40301	50～99
2017	2	4～	配送先スーパーマーケットにおいて、被災者は荷受け口付近にトラックを停車し、荷台に乗って一人でパンの荷卸し作業を行っていたところ、勾配（1～2度）のためトラックが後方に動き出したため、荷台から飛び降りてト	40301	30～

		5	トラックの後方から制止しようとしたが押し倒され、トラック左後輪に背部をひかれて死亡した。		49
2017	2	4 ～ 5	鑄造工場内において、同会社の労働者が床に落ちたショット玉の回収作業中に、ベルトコンベアの回転軸とベルトの間に右半身を巻き込まれ、死亡した。	40301	10～ 29
2017	2	10 ～ 11	バッテリーの上がった10tトラックの脇に別の10tトラックを並列に停車し車両と車両の間に入ってケーブルを繋ぎ、バッテリーの上がったトラックのエンジンを始動、その後ケーブルを外そうとして再び車両と車両の間に入ったところ、エンジンを始動したトラックが前方へ動き出して車両と車両の間に胸を挟まれた。トラックの停車位置は前方が低い勾配となっていた。意識不明で救出されたが、死亡した。	40301	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	事業場内において、3か月点検を行うため、トラックの前輪部をジャッキアップし、後輪側のエアサスペンションを作動させ、車体を浮かす事により、トラックと床の隙間を広げ、被災者がトラック下部に潜り、グリスアップ作業を行っていた。別の労働者がライト等の点灯点検を行うため、トラックの電源を入れたところ、エアサスペンションが降下部に作動し、エアサスペンションのスタビライザー部と床面に挟まれ死亡した。	11701	1～9
2017	3	10 ～ 11	坂道で行う下水道工事において、運転手が降りて無人となったダンプトラックが動き出し、交通誘導警備を行っていた警備員に衝突。警備員はダンプトラックとガードレールに挟まれ死亡した。ダンプトラックが動き出したことに気が付いた工事作業員が警備員の存在に気が付かないまま、ガードレール越しにダンプトラックのハンドル操作を行い、ガードレールにぶつけて止めようとしていた。	170201	100 ～ 299
2017	3	6 ～ 7	本社駐車場に縦列駐車していたダンプトラック2台の出発前車両点検中、同僚が前方のダンプトラックのエンジンを掛けたところ、急に後進したために後方のダンプトラック前面部にいた被災者が挟まれた。	10909	1～9
			被災者は、廃材ヤードにおいて、10トンダンプトラックの荷台に積んでい		

2017	4	16 ～ 17	た残材（アスファルト合成材）を取り除くため、荷台を上げエンジンを掛け た状態で歯止めをしないまま運転位置から離れたところ、無人のダンプト ラックが同ヤードから下り勾配方向（勾配約5～10度）に動きだし、逸走 した同トラックに轢かれた。	40301	1～9
2017	4	8 ～ 9	被災者は、トラックにて搬入されてくる木質バイオマスを受け入れるため、 トラックを木質バイオマス（木材チップ）貯蔵庫内部へ誘導していたとこ ろ、誘導していたトラックの右後輪に轢かれた。	11609	1～9
2017	5	14 ～ 15	廃棄物埋立処分場において、産業廃棄物を積んだダンプの後方でダンプの誘 導作業を行っていた被災者が、ダンプのあおりと荷台の間に頭部を挟まれ た。負傷後、治療を受けていたが死亡した。	150102	1～9
2017	5	12 ～ 13	資材置き場において、被災者はトラックの右後輪に挟まれて死亡した。	30110	1～9
2017	6	4 ～ 5	乗務前の点呼後に、車内の煙草の吸い殻を捨てようと貨物自動車の運転席か ら降り、事務所前の吸い殻入れに向かって歩いていたところ、サイドブレー キを降ろしたままの状態であったため当該車両が動き出し、これを止めよう として車両の前に回り込んだところを当該車両に轢かれた。	40301	1～9
2017	7	6 ～ 7	被災者は、土砂を運搬するダンプトラックの運行経路上で、ダンプトラック に背を向けて立っていたところ、後退してきたダンプトラック（最大積載量 11t）の左後輪に轢かれた。	30109	1～9
2017	7	22 ～ 23	構内において、被災者が休憩を終え休憩所から荷降ろしのためにトラックが 発着するエリアを横断し、作業場である食料品倉庫に向かう途中、同倉庫前 で立ち止まっていたところ、運送会社の運転手が運転するバック走行中のト ラックに轢かれた。	40301	50～ 99
2017	8	2 ～ 3	業務が終了し、事業場駐車場にトラック（4t箱車、マニュアル車）を駐車 する際、目視でトラック周囲を確認するため、トラックから下車した。直 後、トラックが前進し、それを止めようとした運転者が、トラックにひかれ た。	40301	30～ 49

2017	8	12 ～ 13	10 t ダンプの車検整備作業で、ヘッドランプ、ウインカー等のライトの点灯を確認するため、被災者が目視確認し、もう1名が運転席でライト点灯操作を行っていた。バックライトの確認をするため、被災者が当該ダンプの後方に立ち、もう1名がバックライトを点灯させるためギアをバックに入れた瞬間、当該ダンプが後方へ急発進し、被災者は当該ダンプの後方約3 mの箇所に停車していた別の10 t ダンプとの間に頭部を挟まれた。	11701	10～ 29
2017	8	14 ～ 15	3 t トラックを被災者が坂道に停車させた後に運転席から降りて坂を下っていたところ、当該トラック（無人）が逸走し始めたため、被災者はトラックを止めようとしたが止まらず、トラックと坂道の途中にある電柱の間に挟まれ、被災した。	30201	1～9
2017	8	8 ～ 9	重機の整備を行っていたところ、下り坂を後進してきた散水車に激突され、重機と散水車との間にはさまれた。	150102	10～ 29
2017	9	4 ～ 5	被災者が荷の積卸しのため14番バースにトラックを停車させて車両の後方に回ったところ、何らかの理由により車両が後ろに下がり、車両とホームとの間に挟まれ死亡した。	40301	30～ 49
2017	10	14 ～ 15	被災者は、配送先で4 t トラック（平ボディ）荷台から積荷のプラスチックボードを荷降ろし後、配送先のフォークリフトを運転するため、一旦トラックを数メートル前進させて停車し、運転席を離れて車両の横を歩行していたが、無人のトラックが前進して公道に出たため、咄嗟に車両前方に回り込んで制止を試みたが、トラックと公道脇のコンクリート壁の間にはさまれ、死亡した。	40301	50～ 99
2017	10	8 ～ 9	柔軟剤の原料物質（液状）を運搬してきたセミトレーラー式のタンクローリーが、所定の荷卸し場に一旦到着、枕木の上に乗るため前進しようとしたところ、後部バルブを開けようとローリーの車台後部に乗っていた荷卸し作業員が車台から転落、ローリーの後部車輪に轢かれ死亡した。	10899	100 ～ 299
		6	キャリアカー（2段積み8台積載）に車両を乗せ、降ろしヤードに到着し		

2017	11	7	た。キャリアカーをダンプさせ下段より順に車両を降ろした。被災者は２段積み上部奥の最後の１台である軽トラックを降ろし中、軽トラックが突然動き出しその下敷きになった。	40301	50～ 99
2017	12	12 ～ 13	木染橋耐震補強等工事において、掘削作業当日、残土を運ぶダンプカーと掘削用機械（ドラグショベル）に労働者が挟まれて死亡した。ダンプカーを運転していた労働者がダンプカー停止後、一旦降車し、付近の清掃作業を行っていたところ、停止していたダンプカーが動き出してしまい、対向側から走行してくる掘削用機械に激突すると気づいて、慌てて止めに入ろうとダンプカーと掘削用機械の間に入ったところ、挟まれた。	30105	1～9
2017	12	8 ～ 9	事業主と被災者２名でごみの収集を行い、環境センターでのごみの搬出を終え、センター内の洗車場において、被災者が高圧洗浄機を用いてパッカー車を洗車していた。事業主が電話のために一時的にその場を離れ、戻ってきたところ、パッカー車内部に巻き込まれている被災者が発見された。発見時、高圧洗浄機から水が出ている状態であった。	40301	10～ 29
2016	1	5 ～ 6	トラック運転手の被災者がトラックの荷台のウイングを約３０ｃｍ開いてステップに足を掛けて荷物を確認していたところ、被災者の足がウイングの閉ボタンに触れてウイングが閉まりアオリの間に頸部を挟まれて圧迫され窒息死した。	40301	1～9
2016	2	14 ～ 15	道路工事現場において、自転車通行者を誘導していたところ、後進してきた工事車両のトラックにひかれた。	170201	50～ 99
2016	2	13 ～ 14	１３トントラック下部のリブにグリス（潤滑剤）注入作業を、被災者１名でトラック下部に潜り込んで行っていたところ、運転手が気付かずトラックを前進させ、被災者がタイヤに轢かれ死亡した。	40301	30～ 49
2016	7	13 ～	１１時５０分、林道開設工事現場内において、被災者は、土砂運搬のため、２ｔダンプトラックを運転して土砂掘削作業場所から１５００メートル離れた路床盛土作業場所へ向かった。１３時２０分頃、同僚が、被災者が昼休み時間が経過しても土砂掘削現場に戻ってこないため、様子を見に行ったところ	30106	10～ 29

		14	ろ、林道から約 11メートル（法面勾配40度）下にある当該ダンプの後部 タイヤ付近で駆動機構に被災者を発見した。		
2016	8	19 ～ 20	2トントラックで食材の配送に従事する労働者が、当該車両の後部と、金属 製ポールとの間に頭部を挟まれ死亡した。被災労働者が配送先の駐車場で荷 降ろし作業をしていたところ、当該車両が建物に向かって後退を始めたた め、咄嗟にこれを制止しようとして車両の後部に入り込んだ結果、建物の車 両衝突防止用のポールとの間に挟まれた。	40301	30～ 49
2016	8	18 ～ 19	大雨で豚舎から溢れ出た豚の糞尿をバキュームカーで吸い出す作業をしてい たところ、停車していたバキュームカーが後方に逸走し、当該車両と豚舎の 壁にはさまれて窒息死した。	70101	1～9
2016	9	12 ～ 13	被災者が最大積載量3.5tのバルク車を傾斜約8度の坂に止め、運転席か ら降りたところ、車が動き出し、キャビンとサイロの柱の間に挟まり死亡し た。	70101	1～9
2016	10	15 ～ 16	自動車整備士である被災者は、同社の整備工場内において、最大積載量1 0.5トンのトラックの左後輪部車軸に設置されているディスクローター （ブレーキ部品）を手持ち式グラインダーで研磨する作業を行っていたとこ ろ、当該トラックの車底に設置された回転中のプロペラシャフト（エンジンの 動力を車軸に伝える部品）に巻き込まれ死亡した。	11701	10～ 29
2016	11	15 ～ 16	高速道路下り線のサービスエリアの駐車場において、トラックの後部荷台に て商品の整理を行っていた被災者がサイドブレーキを引き忘れたため、ト ラックが後進し、気づいた被災者が荷台から降りたところ、後方に駐車して いた大型トラックとの間に身体をはさまれ死亡した。	80109	10～ 29
2016	11	15 ～ 16	被災者は、建築物の解体工事現場にて事業主とともにダンプのタイヤを洗浄 する作業に従事中、ダンプの前方にて当該ダンプ前輪を洗浄していたとこ ろ、当該ダンプが発進したため、轢かれた。	30209	10～ 29
2016	11	15 ～	被災者は、凍結防止剤散布車の修理点検を行っていたところ、車両後部にあ る凍結防止剤を投入するホッパー内下部にあるシャフト及びスクリュコン	11701	30～ 49

		16	ベアに右半身を巻き込まれた状態で発見された。		
2016	12	12 ～ 13	最大積載荷重4トンのトラックが解体作業で出たスクラップ資材を積み込むため、バックで現場敷地内に入ってきたところ、現場敷地内車両入場口付近で横になっていた被災者が左後輪で轢かれ、被災した。	30309	1～9
2015	8	9 ～ 10	被災者は、建設工事現場において、ミキサー車からコンクリートポンプ車へのコンクリート供給の作業時に、ミキサー車を後進させ所定位置に停車させるための誘導の業務を行っていた。被災者は、ミキサー車を停車させた後に体調不良となり、ミキサー車前方の日陰部分に座り込んでいたところ、ミキサー車の運転手が被災者に気付かずに発車したため、当該ミキサー車に轢かれたもの。	10901	10～ 29
2015	6	9 ～ 10	高速道路において、工事規制帯内で橋台の隙間の測定（推定）していたところ、バック走行してきた2tトラックに轢かれたもの。被災者は、高速道路会社より委託を受け、施工管理を行うため、出張作業で工事現場に立ち入っていた。	170209	1～9
2015	5	9 ～ 10	工作機械を設置するため当該機械をトレーラーの荷台に載せ工場に搬入していた。当該機械の置き場所を調整するため一度工場内に入れたトレーラーを外に出そうとしたとき、当該機械の上にいた被災者が工場の入り口上部と当該機械に挟まれた。	30302	10～ 29
2015	6	10 ～ 11	荷（冷凍食品）の入庫後、時間が経過しても出発しないトラック（4t冷凍車）を不審に思った荷受け担当者が、トラック後部とプラットホームに挟まれている被災者を発見した。発見時、トラックの後部扉（観音開き）は開いたままの状態。入庫時のトラック停車場はプラットホーム側が下がる3度の傾斜がついている。	40301	30～ 49
2015	5	11 ～ 12	4tダンプの車検整備において、荷台を上げて車体と荷台の間に入り荷台昇降用油圧ホースを交換する作業中、荷台を上げた後、ストッパーを1つ設置したが荷台を下げて固定せずに、油圧ホースを取り外したため荷台が下降し、ストッパーが衝撃で外れ、車体と荷台の間で作業していた被災者の頭部が挟まれ死亡したもの。	80202	10～ 29

2015	8	1 ～ 2	ヒヨコを配送するトラック（2 t）の運転席側ドアと建物の壁にはさまれ被災したもの。被災者が当該トラックへヒヨコを積み込もうとしていたところ、何らかの理由でトラックが前方に動き出したのでトラックを止めようとしていたと思われる。災害発生時、サイドブレーキは引かれておらず、トラックの止めてあった場所は2度のこう配があった。	70101	10～ 29
2015	5	8 ～ 9	被災者は同僚と2人でダンプトラックの運転席に取り付けられた無線アンテナを交換する作業をしていたが、同僚が運転席から外に出る際、荷台を昇降させるレバーに身体が触れ、レバーが下に下がったため、荷台が降下し、その時荷台の下で作業していた被災者が荷台とダンプトラックの車体との間に腰を挟まれたもの。	11709	1～9
2015	5	11 ～ 12	防潮堤建設工事で被災者が土砂・セメント混合物（CSG）打設施工基盤面で、被災者はエンジン式ブロワーを背負いながら当該基盤面の清掃作業を行っていたところ、敷き均し用CSG材を運搬のため、バックしてきた最大積載量9.5トンのダンプ荷台の左後部と被災者の左頭部が接触し、被災者はバランスを崩して転倒し当該ダンプの左後輪に轢かれ死亡した。	30111	10～ 29
2015	10	10 ～ 11	被災者は酪農組合の農家に家畜用飼料を運搬する作業を行っていた。被災時、運送先の農家の飼料小屋に7 tトラックを停車させて飼料を吐出する準備作業中にトラックが逸走し約20 m後進した。トラックは隣接する土手に衝突し横転した。逸走経路上に被災者が倒れており、下半身を轢かれていた。トラック後輪に血痕があったことから、被災者は逸走トラックに轢かれたもの。	40301	10～ 29
2015	7	16 ～ 17	ダンプトラックの荷台昇降用シリンダーの油圧ホースの交換作業中、ダンプトラックの荷台を上げて落下防止用のストッパーをセットし、エンジンスイッチを切った状態で荷台と車体の間に入って作業を行っていたところ、ストッパーが破損して荷台が落下し、はさまれたもの。	30102	50～ 99
2015	1	11 ～ 12	労働者1名がダンプの荷台を上げて油圧ホースの交換作業を行っていたところ、荷台が落下し、荷台とタイヤとの間に挟まれたもの。	11702	1～9

2015	5	13 ～ 14	農道改良工事現場（延長５６１．８メートル、幅６メートル）において、被災者が、移動式クレーン機能付きドラグ・ショベルのバケットにフックを格納していたところ、同僚の運転する１０トンダンプが１４．６メートル前方から後退してきたため、ダンプ後部とバケットとの間に挟まれ、被災したものの。	30106	10～ 29
2015	3	16 ～ 17	建設業を行っている事業場の土取り場の前方が下がった場所で、ダンプカーに積んだ土砂を下し、５０ｃｍほど前進させダンプカーの前面で用を足していたところ、動き出したダンプカーにひかれたもの。	30109	10～ 29
2015	6	12 ～ 13	被災者（派遣社員）は、休憩時間に昼食を食べるために、砕石プラントのホッパー前を歩行して移動中、砕石プラントのホッパーに岩石を投入するためにバックしてきたダンプ（車両系荷役運搬機械）の後輪に轢かれ、死亡した。（死亡日時 平成２７年６月４日午前３時頃）	20201	30～ 49
2015	8	9 ～ 10	運転手と被災者の２人がパッカー車にて、災害発生場所である清掃所へ回収した空き缶を持ち込んだ。運転手は、運転席から合図者である被災者が見当たらなかったためトイレ等に行っているものと誤信し、被災者からの合図を待たずに運転席からパッカーを開けた後荷台をダンプさせ排出、続けて荷台を戻してからパッカーを閉めるという操作を行ったところ、被災者が荷台内に頭部を入れていたため、パッカーに挟まれて被災したものの。	150103	10～ 29
2015	9	19 ～ 20	食品工場構内において、１０ｔトラックを出荷バースに接車後、トラックへ積込作業を行っていたところ、練り製品積載パレットを２枚積み込んだ時に、トラックが前方に動き出したため、トラックを止めようと前方に回り込んだ際に転倒し、トラックの左前輪に轢かれたもの。	40301	100 ～ 299
2015	10	4 ～ 5	配送を終えてターミナルに戻り、トラック後方の観音扉を開けて空のコンテナを置き場に戻した。観音扉を閉めるためトラックを移動させて停車したが、トラックが動き出し、近くに停車していたトレーラーの連結部分にぶつかった。そのときトラックのドアが閉まり、降車しようとしていたあるいは乗り込もうとしていた被災者が、トラックのドアと運転席の間にはさまれ胸部圧迫で死亡した。１人乗務で発生状況を現認した者はいない。	40301	30～ 49

2015	11	13 ～ 14	キャリアカーのエンジンの整備を行うためにデッキ（荷台）の一部を動かしていたが、エンジンの整備が終了し前側上段デッキを元に戻す必要があった。被災者が前側上段デッキの落下防止用に挿した後方ロック部の安全ピンを抜かずに水平に戻す作業を行ったため、前側上段デッキが水平にならず、後方ロック部を被災者が外したことから前側上段デッキの後方部が跳ね上がり、後側上段デッキとの間に被災者の頭部が挟まれた。	11701	30～ 49
2015	10	11 ～ 12	跨道橋橋台の基礎工事現場において、クレーン機能付きドラグ・ショベルを用いて、現場内に敷設されていた仮設の鉄板を大型ダンプトラックに積み込み作業中、停車していたダンプトラックが突然逸走し始めたため、ダンプトラックの左後方で待機していた被災者が咄嗟に止めようとして、ダンプトラックの前方に回り込んだところ、前輪及び後輪に轢かれ、他臓器損傷による外傷性ショックにより1時間後に死亡した。	30199	1～9
2015	7	14 ～ 15	ダンプにより搬入した外構工事用の約6 tのアスファルト合材を荷下ろしする作業において、ダンプの荷台の最後尾にある「チャンバー」と呼ばれる機械ロックを施すため、被災者が荷台を約20度まで上昇させ同僚がタイヤショベルを運転して後部のあおりをバケットで押さえた後、運転席内にある「チャンバー」のスイッチを入れようとした際、荷台が不意に下降し、何らかの目的で荷の下に入った被災者が荷台と車体の間に挟まれたもの。	30202	1～9
2015	9	8 ～ 9	被災者が仮置き場で廃棄物の中から段ボールを選別し、これを機械式ごみ収集車の投入口に投入する作業をしていたところ、誤って、機械式ごみ収集車の押込板に巻き込まれた。	150102	1～9
2015	10	10 ～ 11	コンテナトレーラーと合板材を搬出するための作業台に挟まれた災害コンテナトレーラーを後退させ作業台へ接続する作業を行う際被災者がトレーラーに挟まれたものと思われる。	50101	10～ 29
2015	8	6 ～	被災者と合番者の2人で、土砂バキューム車に貼られていたステッカーを剥がす作業を行おうとしていたが、タンク内にある道具が必要となったため、タンクのハッチを開けて道具を取り出した。その後、被災者の合図で合番者	30199	100 ～

		7	がハッチを閉める操作を行った際に、被災者がハッチに頭・胸を挟まれ死亡したもの。		299
2015	8	7 ～ 8	建設現場で使用する砕石を砕石工場でトラックに積み込み、同僚のトラックのシート掛けを手伝っているときに、自分の乗ってきたトラックが動き出し、シート掛けをしていたトラックと動き出したトラックにはさまれたもの。	30309	1～9
2015	7	11 ～ 12	送電線敷設の新設工事において、被災者が電柱の写真撮影をしていたところ、電柱の電圧確認を終えた現場作業員運転の後進してきたトラックに轢かれ、死亡したもの。	30203	50～ 99
2015	10	9 ～ 10	物流倉庫の新築工事現場において基礎杭の打設中、被災者が測量器で杭の垂直精度を計測後、杭に近づこうと幅約6mの鉄板が敷かれた道路を横断しようとした際に、バックしてきたダンプトラック（10t）の後輪に轢かれた。	30201	30～ 49
2015	5	13 ～ 14	傾斜のある河川敷においてドラグショベルを移動式クレーンとして使用し、4トントラックに土嚢の入ったフレコンパックを積み込む作業中、トラックが傾斜によりバックし、トラックの荷台で玉はずし作業を行っていた作業（運転手）がドラグショベルのバケットとトラックのキャビンの間に挟まれ被災した。	30107	1～9
2014	1	8 ～ 9	最大積載量2トンの事業用貨物バンを運転し、宅配物の集荷場所に向かって下り坂の公道を走行していた際、キャビネット（運転台）後部が上がり前方に倒れたため、停車後、運転席から降りてキャビネットを戻し終えたところ、当該車両が前進し始めたため、キャビネットの前で止めようとしたが、当該車両とブロック塀との間に体を挟まれた。	40301	10～ 29
2014	1	16 ～ 17	被災者は、引越の積荷を運ぶ業務中、市道で同僚の運転するトラックの後退を誘導していたところ、電柱とトラックの間に挟まれ、出血性ショックで死亡した。	40301	10～ 29
2014	1	5 ～	被災者は、顧客に荷物を配送するため会社を出発したところ、途中の道路にて停車し、荷台の下でパワーテイクオフシャフトに巻き込まれていた状態で	40301	10～

		6	発見された。		29
2014	2	16 ～ 17	被災者は、生産車であるトラックの最終塗装前のマスキング作業終了後、トラックが停車位置から左前方15メートルにある塗装ブースに移動するため、発進したところ、左後輪に轢かれた。尚、運転者はマスキングの状況を右前輪後方で確認後、トラックを発進させたが、誘導者から他の車両の通行のため、一度バックするよう指示があったので指示に従い、再度、誘導者の合図で発進したところ、事故が発生した。	11502	30～ 49
2014	2	12 ～ 13	再生資源受け入れ先にて、被災者と同僚の2名が、塵芥車（パッカー車）後部を開け、回収した廃プラスチックを排出後、同僚が塵芥車後部を閉めた際、被災者が挟まれた。	150102	10～ 29
2014	2	7 ～ 8	敷地内に停車しているダンプトラックのサイドブレーキが凍結し、サイドブレーキが下がらない状態であったため、荷台を上げ被災者と同僚作業員の2名により凍結箇所の水をかけ溶かしていた。同僚作業員が運転席のステップの上でサイドブレーキの確認をしていたところ、荷台が突然下がり、車体の上にいた被災者がフレームと荷台に挟まれ死亡した。	11701	10～ 29
2014	2	14 ～ 15	枯草を2tダンプを用いて収集作業中、下り坂に停車させていたダンプトラックが突然動き出し、これを止めようと運転席に移ろうとした被災者（運転者）が、ダンプトラックが擁壁に接触した際、運転室とそのドアの間に胸を挟まれ窒息し死亡した。尚、エンジンは停止させていた。	30106	30～ 49
2014	3	15 ～ 16	被災者は、大型ダンプトラックのライセンスランプの整備を行う作業中、ベッセル（荷台）を少し上昇させた状態で、ダンプトラックのシャシ後方から覗き込むような姿勢でライセンスランプ付近で作業を行っていた際、ダンプトラックのエンジンを始動したままでダンプレバーを中間位置にしていたため、ベッセルが徐々に上昇したとみられ、リアパンパーとベッセル後部に挟まれた状態で発見された。	80202	30～ 49
2014	3	18 ～	古紙圧縮コンベヤー前にて、作業員が機械式ゴミ収集車を操作し、被災者とともに、回収した古紙の荷卸しと上昇させたテールゲート裏に挟まった段	150102	1～9

		19	ボールの除去作業を終え、当該テールゲートを下降させたところ、被災者が当該テールゲートと当該収集車の後部に挟まれた。		
2014	3	12 ～ 13	道路の補修工事現場にて、舗装工事に使用する砂利を積んだトラックが後退した際、被災者が轢かれた。	170201	50～ 99
2014	3	7 ～ 8	コンクリートポンプ車で打設準備のため、アウトリガー等のセッティング中、点検のため、ポンプ車の前方から底へもぐりこみ、油圧系統の配管等の点検を行っていた際、ポンプ車底部にあるドライブシャフトの回転部に作業服が巻き込まれ、頭部がシャフト部に当たった。	30209	1～9
2014	3	8 ～ 9	積荷の確認をしようと、荷台のウイング部を少し開け、頭を入れ、目視していた際、足でウイングの開閉スイッチを押したところ、アオリとウイングに首を挟まれた。	40301	10～ 29
2014	4	14 ～ 15	敷鉄板相互を溶接により固定する作業を行っていた被災者は、右後方から前進してきた貨物自動車の前輪に巻き込まれ、死亡した。	30201	30～ 49
2014	4	8 ～ 9	トラックを運転し、単独でプロパンガスの配送中、トラックを止め、降車した際、トラックが後退を始め、被災者がトラックを停止させるため乗り込もうとしたところ、トラックと道路脇の石垣との間に身体を挟まれ、振り落とされ、トラックの前輪に頭部を轢かれ、死亡した。	40309	10～ 29
2014	5	17 ～ 18	被災者は、ダンプトラックの荷台を上げ、エンジンを掛けた状態のまま運転席を離れ、ダンプトラックの荷台の下に立ち入った際、荷台が下がり、ダンプトラックの荷台と車体フレームの間に体を挟まれ、翌日発見された。	30199	10～ 29
2014	6	10 ～ 11	スロープにトラックを止め、トラックから下車した際、サイドブレーキが甘かった為、車両が動き出し、被災者が車とフェンスの間に挟まれ、死亡した。	40301	10～ 29
2014	6	9 ～	給水車を傾斜が3度で緩やかな坂道になっている路上に停車した際、無人の給水車がゆっくりと動き出し、被災者は給水車を止めようと駆けつけたとこ	150103	50～ 99

		10	ろ、給水車と擁壁との間にはさまれ、首などを強く打ち、死亡した。		
2014	8	13 ～ 14	ミキサー車の後方にて、ポンプ車投入ホッパーへのコンクリート投入準備作業を行っていた際、被災者は、後退してきたミキサー車とポンプ車との間に挟まれ、死亡した。	10901	30～ 49
2014	8	9 ～ 10	道路補修工事現場にて、トラックを傾斜地に停車させていた際、トラックが斜面を下る方向に動き出し、トラック後方にいた被災者が後輪でひかれ、外傷性ショック及び肺挫傷により死亡した。	30106	10～ 29
2014	8	14 ～ 15	軽油を配達する為、スターターが故障しているタンクローリー車を駐車場の下り坂を利用し、エンジンを掛けようと車庫から駐車場に出そうと前に押したところ、車が片方の柱に寄り過ぎ、車と柱との間に体を挟まれた。	80204	1～9
2014	8	13 ～ 14	工事現場の資材置場にて、被災者がダンプの荷台と車体との間にはさまれているのを発見された。	30106	1～9
2014	8	9 ～ 10	おが屑を廃棄するため、指定された林道脇の捨て場にトラックを停車させ、トラックを降した際、トラックが傾斜により逸走したため、トラックの運転席側のドアを開け乗り込もうとしたところ、トラックが林道脇の擁壁に向かって逸走し、擁壁により押された運転席側ドアとトラック本体に挟まれた。	60101	10～ 29
2014	8	8 ～ 9	車両積載形トラッククレーンを後退させていたところ、ドラグショベルの整備を行っていた被災者は、トラッククレーンの後方荷台部分とドラグショベルのバケットの間に挟まれ、死亡した。	30109	30～ 49
2014	9	12 ～ 13	駐車場にて、機械式ごみ収集車を停車し、排出板の不具合を調整しようと、エンジンを始動させたところ、歯止めを乗り越え、走りだしたごみ収集車に轢かれた。	80109	10～ 29
2014	9	11 ～ 12	ダンプトラックを運転し、荷を運搬中、構内の坂道で停車し、降車していた際、トラックが逸走した為、被災者がトラックを止めようとトラックに近づいたところ、トラックにひかれた。	150103	10～ 29

2014	10	7 ～ 8	ホーム前でトラックに荷を積もうと後ろの扉を開けていた際、トラックが動き出し、止めようと追いかけたところ、別のトラックとの間に挟まれた。	40301	10～ 29
2014	10	17 ～ 18	トラックが、荷積み作業のため冷蔵庫の搬出口につけようとバックした際、トラックの後方にいた被災者に当たり、被災者の頭部がトラック後部と搬出ゲート下部に挟まれた。	10102	50～ 99
2014	11	6 ～ 7	ダンプトラックの運転手である被災者は、休日に1人でダンプトラックの荷台を上げた状態でP T O等のグリスアップをおこなっていたところ、荷台と車体との間に挟まれて死亡しているのを発見された。	20202	1～9
2014	11	13 ～ 14	えん堤設置工事現場内の傾斜地にて、トラックへの車両系建設機械（ドラグショベル）の積み込み作業中、荷台に建設機械を積載後、トラック運転手である被災者がアウトリガーを収縮させたところ、トラックが逸走し、被災者がトラック後輪部にひかれ、死亡した。	40301	10～ 29
2014	11	8 ～ 9	同僚が機械式ごみ収集車の回転板の起動スイッチを押したところ、被災者が回転板に頭部を挟まれた。	150109	10～ 29
2014	11	9 ～ 10	ミキサー車がジブクレーン軌道間の通路を後退中、同通路を歩行していた被災者が轢かれた。	11501	10～ 29
2014	12	17 ～ 18	ダンプトラックにより土砂の運搬作業中、荷台と縦根太の間に頭部を挟まれていたところを発見された。	30309	1～9
2014	12	8 ～ 9	ピックアップトラックをコンクリート製の坂道にエンジンをかけた状態で車体前方を坂道の下に向けて停車し、降車し車から離れた際、トラックがゆっくりと坂を下っているのを確認し、走行する車体の前方に立ち入り、両手で押さえ停車させようとしたところ、車体の下に巻き込まれ、死亡した。	170209	100 ～ 299
		8	配送先にて、荷降ろしを行っていた際、停車していたトラックが動き出した		

2014	12	～	ため、前方に回って止めようとしたところ、道路側面にある隣家の門柱とト	40301	1～9
	9		ラックの間に挟まれた。		
2013	10	～	駐車場にて、セミトレーラの車体とトラクタの連結作業を行っている際、車	40301	30～
	10		体のサイドブレーキを掛けていなかったため車体が動き出し、トラクタの荷		49
	11		台部分から降りた被災者は、車体と隣のレーンにおいてあったコンテナ架台		
			との間に挟まれ死亡した。尚、被災者は一人で作業をしており、災害を目撃		
			したものはおらず、同僚が被災者を発見した。		
2013	4	15	拡幅された国道の舗装工事現場において、道路の片側一車線ずつを交通規制	30106	50～
		～	しながらアスファルト舗装を行っていたが、次のアスファルト合材運搬用ダ		99
		16	ンプカーが到着するまでの間、予め予定していた取合部の埋め戻し作業に取り		
			掛かったところ、碎石を積んでいた最大積載量3トンのダンプカーを目的		
			位置へ後進させた際、当該ダンプカーの後方で作業していた被災者が轢かれ		
			た。		
2013	11	9	製鋼所で出た乾粉（副産物）をバキューム車で回収し、リサイクルセンター	150102	10～
		～	のリパルパー槽に降ろしていた際、バキューム車の後部ハッチを開け、乾粉		29
		10	を排出し、出きらなかったエプロン部の乾粉をほうきで掃き出していた被災		
			者は、誤って閉じられたハッチと車体に挟まれた。		
2013	3	9	産業廃棄物中間処理場において、廃棄物集積場からごみ収集車への廃プラス	150102	1～9
		～	チック類積み込み作業中に発生した。被災者は、工場長と2人で、集積廃棄		
		10	物からプラスチック類を選別しながら収集車後部の投入口に投げ入れる作業		
			をしていたところ、投入口に設けられた回転板に上半身を巻き込まれた。工		
			場長が回転板を反転させるボタンを押したが、被災者は咽頭部をひどく損傷		
			しておりまもなく死亡が確認された。		
2013	5	16	産業廃棄物中間処理場で、建築廃材を入れたコンテナをトラックの荷台に載	150102	1～9
		～	せようとして、後進するトラックを誘導していた被災者は、トラックとコン		
		17	テナの間に挟まれて死亡した。		
2013	11	13	工場において、トレーラーの下にもぐり、エアーベローズの安全リリース弁	170209	30～
		～	に繋ぐホースジョイントを取付け作業中、車体を支えるエアーが抜けて車体		

		14	が下がり、頭部を挟まれ死亡した。		49
2013	2	10 ～ 11	商品配達のため、被災者は、トラックを客先の駐車場に停車し、エンジンを切って運転席から降りた。被災者が、荷台で荷降ろし作業を行っていたところ、トラックが前に動き出した。被災者は、荷台から降り、運転席に行こうとトラック右横に行ったところ、動いたトラックと敷地の門柱の間に挟まれた。トラックが門柱から通り過ぎた後、被災者は倒れ、病院に搬送されたが死亡した。	40301	100 ～ 299
2013	1	15 ～ 16	翌日の運送に備えて自宅でトラックの整備を行っていたところ、リフトアップをしていたボトル型ジャッキがエンジンオイルの交換中に外れ、トラックの下敷きになった。	40301	50～ 99
2013	11	13 ～ 14	被災者は、当該事業場の車庫でバキュームカーの底部に入り、タンク下部のし尿漏れ箇所の修理作業を行っていたところ、作業箇所の近くでタンク内を負圧状態にするために回転していたシャフトに上着が巻き込まれ、頸部圧迫により窒息死した。尚、作業当日、被災者1人で作業を行っていた。	150103	1～9
2013	12	10 ～ 11	被災者は、リサイクルされる食品用発泡トレイを回収運搬するため、一人で所属事業場から塵芥収集車を運転し災害発生場所に向かった。災害発生場所に到着後、作業中なんらかの原因により塵芥収集車のテールゲート内に転落し、圧縮板の内側に巻き込まれているところを、災害発生場所の所属労働者により発見された。	11709	30～ 49
2013	9	22 ～ 23	被災者は、店舗から取り外した重量約200キログラムの厨房機器を2トントラックのパワーゲートに乗せ、荷台に積み込もうとしたところ、厨房機器が傾き、支えようとしたが、パワーゲート上から車体左側に厨房機器と共に落下、被災者は厨房機器の下敷きとなった。	170209	10～ 29
2013	1	5 ～ 6	被災者は、ゴミ収集先の物品納入口脇にある地下駐車場出入口付近に、自ら運転していた塵芥収集車を止め、ゴミ収集作業に取りかかっていたところ、下り側に当該塵芥収集車が動き、塵芥収集車の右後部側面と側壁との間に体を挟まれ、胸部圧迫により窒息死した。	150102	10～ 29

2013	4	10 ～ 11	ゴミ収集車がバック走行で建物内の集積所に入ろうとした際、同ゴミ収集車の荷台上にいた被災者が、車両と車両の高さ制限を示す鉄骨との間に頭を挟まれ、死亡した。	150103	30～ 49
2013	3	7 ～ 8	空積みの最大積載量24トンのコンテナトラックを、被災者を含む2名で誘導していたところ、この2名の誘導者で「ストップ」と声で停止の合図をしたが、運転者に届かず、そのまま後進したために、コンテナトラックの後方にいた被災者が、コンテナトラックと「輸出台」と呼称される鉄製の架台との間に挟まれた。	150109	30～ 49
2013	9	13 ～ 14	被災者は、勾配のある市道においてごみ収集車（以下「車」という。）を停車してごみの回収作業を行っていたところ、車が坂を下り始めた。そのため、運転席から車に乗り込もうとしたところ、運転席のドアが住宅のブロック塀に当たったために閉まり、乗り込もうとしていた被災者の体が、車体と運転席のドアに挟まれた。	150103	10～ 29
2013	7	8 ～ 9	仮設道路の撤去工事において、ダンプトラック（以下「トラック」）を用いて資材を運搬する作業を行うこととした。被災者は、現場内にトラックを停止させて運転席を下車した。その後、突然、無人のトラックが動き出し、それを止めようとした被災者がトラックと側壁との間に挟まれた。	30199	10～ 29
2013	10	1 ～ 2	被災者は、トラック（最大積載荷重2.5トン）に荷を積み込んでいたところ、トラックが無人のまま前方に動き出したため、被災者がトラックの前から腕で押して止めようとしたが、トラックと金属製のラックの間に挟まれた。	40301	30～ 49
2013	9	16 ～ 17	被災者は、市道の歩道部にある街路樹の剪定等の作業（以下「街路樹工事」。）において、片側2車線道路の歩道側車道上で、工事に必要な範囲をカラーコーンで区切り交通規制をして行っていた。公道上で走行車両同士の交通事故が発生し、その車両のうち1台（トラック）が、交通事故の反動で街路樹工事の交通規制範囲に進入し、街路樹工事に従事していた被災者が、当該トラックと街路樹工事に使用していた高所作業車の間にはさまれた。	60101	1～9
			鉄骨約2トンを積んだ4トントラックを運転していた被災者が、取引先の入		

2013	12	14 ～ 15	口付近の道路上にトラックを停車させて運転席を離れたところ、路面の傾斜（勾配10度）によりトラックの車体がゆっくりと後退し始め、道路から道路北側の田地に転落した。車体の後退を止めようとして運転席付近にいた被災者は、車体と転席側の扉との間に身体を挟まれ被災し、胸部圧迫により窒息死した。	40301	50～ 99
2013	4	13 ～ 14	被災者は、荷積みホームで荷を被災者が運転する車両（4トントラック）に積んだ後、何らかの理由で当該車両と荷積みホームの間にいたところ、当該車両がホーム側に逸走し、車両と荷積みホームの間に挟まれた。災害発生後の状況から、災害発生時、車両はエンジンを切り、ギアはニュートラルの位置で、制動装置（サイドブレーキ）は引いてあった（かけてあった）状態であった。また、車止めは使用していなかった。	40301	10～ 29
2013	5	19 ～ 20	被災者は、配達で使用した資材を（積載量5.6tのトラック）荷台から下ろす作業を行い、車庫にトラックを入れた。被災者のトラックから「パーン」という破裂音がしたため、近くにいた同僚が被災者の元に駆けつけ、トラックの後輪と車体の間に挟まれている被災者を発見した。消防隊員に救出されたが、搬送先で死亡が確認された。	40301	10～ 29
2013	5	16 ～ 17	最大積載荷量9900kgのダンプトラックを運転し、砂利を土場に運び終えた被災者が、事務所近くの路上でダンプトラックの荷台とシャシの間に挟まれた状態で発見された。尚、ダンプトラックには安全ブロックが備えられているが、使用されていなかった。	40301	10～ 29
2013	6	11 ～ 12	ダンプトラック運転手が、現場内で砂利を積み、4トンダンプを約50m先の砂利を下す場所までバックさせていたが、衝撃を感じ停止し確認したところ、同ダンプトラックの左後輪に轢かれ倒れている被災者を発見した。	30106	1～9
2012	2	15 ～ 16	町道において、トラックの左後輪の外側タイヤ1本にチェーンを装着する作業中、ジャッキアップに使用していたジャッキが外れ、車体が横滑りし、車体とガードレールとに胸部がはさまれ、窒息死した。	10103	1～9
		9	被災者は一般廃棄物の収集作業のためバッカー車を運転し、商業施設に到着し段ボールの積み込み作業を単独で開始した。同僚労働者が可燃ごみ、生ご		100

2012	5	～ 10	みの収集のため、別の車両で当該商業施設に到着し積込み作業を終えた後、被災者の不在を不信に思いバッカー車の投入口を覗き込んだところ、奥に巻き込まれているのを発見した。	150102	～ 299
2012	3	21 ～ 22	荷積先敷地内において、被災者は自分が運転してきたトラック（2.9 t の保冷車）と乗用車との間に挟まれた状態で発見された。	40301	10～ 29
2012	3	16 ～ 17	「超強力吸引車」のタンクに集めた粉を、タンクを傾斜させ、タンク後部のハッチを開けて、手作業で袋に投入する作業を行っていた。袋投入作業を終わり、傾斜させていたタンクを水平に戻し、ハッチを閉めたところ、閉塞部の清掃を行っていた被災者をはさんだ。なお、タンクの傾斜及びハッチの開閉は車両左側面前方にある操作レバーで油圧操作を行う。また、操作者は車両左後方に居る合図者の「タンクを水平に戻す」合図で操作した。	40301	10～ 29
2012	2	1 ～ 2	被災者は道路舗装工事現場内の勾配約2度の路面上において、他の作業員3名と施工ジョイント部分への合材搬入作業を行っていたが、坂道上方に停車していた無人の10 t ダンプ車が後退し始め、逃げ遅れた被災者は、左後輪に轢かれた。	30106	1～9
2012	3	17 ～ 18	被災者はごみ収集車（パッカー車）内のダンボールを後方から排出するため、後方のテールゲートを上げダンブアップし排出、確認の後、テールゲートを下げ後方に回り、回転板等を起動させたところ、回転板に巻き込まれた。	150102	30～ 49
2012	5	6 ～ 7	被災者がトラック（最大積載量7.1 t）の暖機を行おうと運転席のドアを開け、地上からエンジンキーを回したところ、トラックが前進し、前方の木材集積箇所へトラックが突っ込み、当該木材が運転席ドアを閉める形となり、被災者はドアとキャビン後方との間に上半身を挟まれ、心肺停止に至った。	70101	30～ 49
2012	4	10 ～ 11	整備工場内でダンプカー（10 t）の修理（クラッチブースターの交換）作業中、シャシーとダンプ（上げた）させた荷台の間に体を入れて作業していた被災者は、シャシーと下りてきた荷台に挟まれ死亡した。	40301	30～ 49

2012	9	14 ～ 15	被災者は荷物を届けるため、配送先の通用口前の駐車場に車両を停車させ降車し、通用口に向かったところ、車両が動き出し、通用口の底下に張られている風除シートと車両との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2012	8	8 ～ 9	被災者はトイレから工場へ戻る途中、重油タンクへの給油を終え、後退してきたタンクローリー（容量14kl）に轢かれた。	10109	10～ 29
2012	11	10 ～ 11	建設工事現場において、荷降ろし後のトレーラー（30 t）が、退場するために現場内の通路を50mほどバックし、方向を転換しようとしたところ、何らかの理由で通路にいた被災者を轢いてしまった。	30209	1～9
2012	11	15 ～ 16	被災者は、修理が終わり客先へ回送する車両を探して整備工場敷地内を歩いていたら、別の労働者が修理のためバックで移動させていたトラックに轢かれた。	11701	30～ 49
2012	8	10 ～ 11	高速道路で中央分離帯の草刈り作業で刈った草をプラスチック製の箕に入れ、パッカー車に刈草のみを投入すべきところ、箕も一緒にパッカー車に入れてしまったため、被災者がとっさに箕を取ろうとしてパッカー車の回転板に上半身を巻き込まれた。	60101	10～ 29
2012	10	11 ～ 12	樋門築造築堤工事現場において、樋門のコンクリートの打設作業中、コンクリートミキサー車が現場から出ようと前進した直後、この前方で作業していた被災者がコンクリートミキサー車に全身を轢かれ、死亡した。	30107	10～ 29
2012	4	16 ～ 17	採石場から10 t ダンプトラックで碎石を資材置き場に運搬し、積荷を降ろした後、ダンプトラックの荷台が上がったままの状態で行っていた時に安全レバーが不完全であったため、荷台が下がってきて挟まれた。	150102	1～9
2012	1	18 ～ 19	車両確認検査場にて車両を走行させたところ、後方車輪付近にいた被災者は後方車輪に巻き込まれ、死亡した。	11502	300 ～
2012	2	11 ～	被災者を含む作業員2名が交差点付近で道路標示の貼付作業を行っていたところ、作業場所から約60m離れた道路上に被災者が駐車させた工事用車両が	30106	1～9

		12	坂道を下ってきたため、車両を止めようと作業員2名で車の正面から止めに入ったが止められず、うち1名が車両にひかれて死亡した。		
2012	10	8 ～ 9	被災者はコンテナに鋼材の積込作業を終え、当該コンテナにコンテナシール（封印）を取り付けようとしていた。取り付け作業にあたり、通常はトレーラーの上で作業を行うが、当日は他事業場の労働者がトレーラーの上でコンテナ上側に取り付け作業を行っていたため、被災者はタイヤとタイヤの間に入り、コンテナ下側に取り付け作業を行っていた。その際、運転者がトレーラーを発車させてしまい轢かれた。	170209	50～ 99
2012	6	6 ～ 7	営業所に戻った被災者は、空ケースを所定の場所に下ろし、トラックを駐車場所に止めるため場内を移動した。開けたままの荷台後部扉を閉めようと一旦停車し降りたところ、止めた場所が緩やかな下り勾配だったため、トラックが逸走した。止めようと運転席に乗り込もうとしたが、停車していた別のトラックに接触し、自車の運転席ドアと運転席の間に胸部を挟まれ死亡した。	80109	100 ～ 299
2012	4	7 ～ 8	トラック運転手である被災者は、積み込んだ荷物を目的地へ運送する途中、コンビニエンスストア駐車場でウイングを開けて積み荷の点検作業中、突然ウイングが下降し、トラックの荷台のウイングとあおりの間に頸部をはさまれ死亡した。	40301	50～ 99
2012	10	17 ～ 18	タンク車の車検整備のため、車体をジャッキ（前後4点）に乗せ後輪の板バネ付属品の交換を行っていたところ、車体が傾き、車体後部と作業床の間に腹部をはさまれ、内臓破裂で死亡した。	80202	10～ 29
2012	11	14 ～ 15	自動車道の草刈り及び樹木剪定作業中、被災者が塵芥車の前方で草木の集積作業を行っていたところ、塵芥車の運転手が被災者に気付かずに塵芥車を前進させてしまい被災者が轢かれた。	30106	30～ 49
2012	2	16 ～ 17	2 t トラックの下でギヤの整備中、回転していたプロペラシャフトに作業着が引っ掛かり左腕が巻き込まれ、作業着で頸部が圧迫され窒息死した。	11701	1～9
			被災者は、着岸したフェリーから牽引車とトレーラーを連結し、搬出する作		

2012	1	8 ～ 9	業を行っていた。牽引車とトレーラー部のブレーキのうち、一部のブレーキのエアバルブの未開放に気づき、運転席から離れ、当該バルブを開放したところ、トレーラー側のブレーキが解除され、牽引車とトレーラーが動きだし、運転席に戻ろうとした際、牽引車とフェリーの内壁との間に体を挟まれ、骨盤骨折等により死亡した。なお、船内の勾配は、約3度であった。	40301	10～ 29
2011	6	13 ～ 14	貨物トラックで鉄くずを製鉄会社に搬送していた被災者が、製鉄会社への搬送を終えて再び公道に出る直前、何らかの理由でトラックを降りて荷台の鉄製扉を開け、荷台を確認していたところ、突如扉が閉まったために、扉と荷台の間に頭頸部が挟まれて頭蓋骨骨折脳損傷により同日死亡したものの。	11009	100 ～ 299
2011	11	10 ～ 11	工事現場に、労働者がダンプを運転して盛土として使用するシラスを降ろした後、現場でタイヤ（前輪）がはまり動けなくなったため、後続のダンプの運転者であった被災者が、動けなくなったダンプの脱出作業の補助をダンプ後ろで作業していたところ、ダンプ後方のブルドーザーとダンプ後部に挟まれ被災した。	40309	1～9
2011	3	9 ～ 10	被災者は、前日に回収した古紙の仕分け作業を行った後、駐車場に駐車していた車両の入れ替えを行うため、パッカー車（最大積載量 2 t）を自ら運転して移動させた後、次に移動させる予定であったトラックに向かいパッカー車の後方を歩いていたところ、後退してきた他の労働者が運転するトラック（最大積載量 4 t）とパッカー車の間に挟まれたものの。	150102	30～ 49
2011	3	8 ～ 9	里道の下り坂で、3 t 車（トラック）の前輪横付近でアウトリガーを元に戻す作業を行っていた被災者が、下り坂を動き出した 3 t 車の左前輪のタイヤの内側にある車軸と地面との間に挟まれた。（事故発生後、20 日目に死亡）	60101	1～9
2011	7	8 ～ 9	被災者は、積み荷を運ぶ準備のため、駐車場内において、トラクタ（牽引車）とコンテナセミトレーラ（被牽引車）を連結する作業を行っていたところ、車両が前方に動き出したため、トラクタ前面を両手で押さえ止めようとしたが、支えきれずに車体下に巻き込まれ、胸腹部圧迫による窒息により死亡した。	40301	10～ 29

2011	7	9 ～ 10	10 tトラックを運転して、荷を運搬途中、駐車場に車を止め、ウイング式の荷台の扉を操作中に荷台側面の扉に首を挟まれ死亡したもの。	40301	10～ 29
2011	3	18 ～ 19	工場において11トントラックに荷物を積み込みしたが、荷主より移動を命ぜられたので近くの道路に移動して荷物の確認を行った。その後、通行人が停車している11トントラック左側面のウイング扉に被災者がはさまれた状態でいるのを発見し、病院に搬送されたが死亡したもの。	40301	10～ 29
2011	5	9 ～ 10	ごみ収集車により収集したゴミを集積場ピットに排出した後、運転手がごみ収集車のテールゲートを閉鎖するため降下させたところ、ごみ収集車内のゴミを除去していた助手の頭部がテールゲートと車体との間に挟まれた。	150103	30～ 49
2011	3	9 ～ 10	上記トラックヤードにおいて貨物自動車（最大積載荷重13400kg）の後進を同車の後方にて誘導していた被災者が同車に轢かれたもの。	10701	30～ 49
2011	3	10 ～ 11	建設工事現場で使用する足場材料を被災者が自社のトラックで、一次下請会社の資材センターに行き、足場材の積込完了後、検収の為に待機をしているときに、エンジンを掛けたままトラックを離れ、自車の前方に向かったときに、自車が動き出し、前方に停車していたトラックの後部と自車の前部に頭部を挟まれ死亡したもの。	30309	30～ 49
2011	6	8 ～ 7	被災者は、配送先にて待機中、12トンウイングトラックに積載した荷物を確認しようと側面のウイングを顔が入る程度に半開し、サイドバンパーに足を掛けて荷台内を覗こうとした。その際、サイドバンパー付近にあるウイング開閉スイッチに右足先が触れてしまったためにウイングが閉まり、ボディのアオリとウイングに首を挟まれ宙吊り状態となり窒息し、病院に搬送されたものの13日後に死亡したもの。	40301	30～ 49
2011	6	10 ～	採石現場において4.75トントラックで表土を切羽から下り坂を下りた先の表土置場に運ぶ際に、車両が右側の盛り土に乗り上げ、制御不能となったため、運転手は運転席から飛び出したかまたは投げ出され、車両に轢かれ死	20201	30～

		11	亡したもの。車両は運転手不在のまま４０メートルほど走り、盛り土に乗り上げ横転して停止した。なお、車両の右前輪は車軸が折れた状態になっていた。		49
2011	11	4 ～ 5	被災者がごみ収集車を傾斜地でバックで移動させた際に、ごみ収集車の右後部が電柱に接触した。被災者がその様子を確認するため、当該電柱に駆け寄ったところ、ごみ収集車が後ろに下がり、電柱とごみ収集車に挟まれ被災したもの。	150109	1～9
2011	5	15 ～ 16	被災者及びバキュームカーの運転者は、上り坂となっている道路の路側帯において、地下し尿貯槽からし尿の汲み取りを行っていた。汲み取りを終えた直後、バキュームカーが後退を始めたため、被災者及び運転者が車両後方から手で押さえたものの、車両は約３メートル後退を続けた。運転者が運転席に乗り込み車両を停止させたが、被災者が何らかの原因で転倒し、後退してくる車の左後輪に轢かれ、外傷性心破裂により死亡したもの。	150109	10～ 29
2011	10	3 ～ 4	空車台車を回送し、配車センターにてトレーラーヘッドを切り離し中、トレーラーヘッドが前方に動き出した。それを止めようと運転席に乗り込もうとするも、隣の台車との間隔が狭く、ドアが隣の台車に押され、体がドアに挟まれた。その後、午前４時４０分頃救急通報、病院に搬送されるも、同日午前５時４０分外傷性心挫傷により、死亡したもの。	40301	10～ 29
2011	11	15 ～ 16	都市ガスのガス管敷設工事現場において、休憩時間中に車線規制を行った道路上の作業帯に停めてあった４トンダンプトラックの前で被災者が休憩を取っていたところ、当該車両の運転手が被災者の存在に気付かず、当該車両に乗り込み、発進させたため、被災者が当該車両の右側前輪に背後から下敷きになるような形で背中から頭部にかけて轢かれ、死亡したものである。	30199	1～9
2011	3	16 ～ 17	工場内で仕分けされた産業廃棄物を最終処分場に搬出するため、被災者の誘導の下、ダンプトラック（最大積載量８９００ｋｇ）を工場搬出入口から工場内に後進にて進入させていたところ、被災者が同車両の右側後輪に頭部を轢かれ被災したもの。	150102	50～ 99
			砂利採取予定地において、被災者は１人でダンプトラックと掴み機を交互に		

2011	7	9 ～ 10	運転し、材木の搬出作業を行っていた。被災者が掴み機を運転し、無人ダン プトラックに材木を積んでいた際、同トラックが下りの坂を逸走したため、 これを止めようとした被災者が誤って同トラックに轢かれたものと推定され る。なお、同トラック運転席側の後輪に血痕が付着していた。	20202	1～9
2011	12	6 ～ 7	飲食店のゴミを収集するため、パッカー車を駐車場に停車し、当該車両から 降りていたところ、当該車両と飲食店の外壁との間に挟まれているところを 発見されたもの。通行人が発見した時には、後退のブザー音が鳴っていたが 原動機は止まっていた。単独作業で、停車した場所は平坦であり、当該車両 はマニュアル車であった。	150102	50～ 99
2011	11	13 ～ 14	被災者は、工事現場で発生した廃材をダンプトラックで中間処理業者まで運 搬し、同処理業者の廃材置き場で廃材を降ろす作業に従事していた。午後1 時30分頃、被災者と同じ業務に従事していた労働者Aが、同処理業者の廃 材仮置き場付近で、被災者が被災者の運転していたダンプトラックの運転席 側前輪タイヤの後方の地面に倒れているのを発見した。	40301	1～9
2011	10	9 ～ 10	ゼオライトの採掘・加工業を営む事業場の工場内において、採掘したゼオラ イトを積載したダンプトラックが、荷卸しのため後退していた。その際、当 該トラックが仕切用鋼板に接近し過ぎたため、運転手は一旦トラックを前進 させ、再度、後退させたところ、被災者が頭から血を流し倒れているのを当 該運転手が発見したもの。その後、被災者は病院に救急搬送されたものの、 脳挫傷のため約5時間40分後に死亡したもの。	10909	1～9
2011	8	11 ～ 12	ジェットコンクリート車（コンクリート打設機械）の混合機部分の清掃作業 において、エアレススプレーを用いてコンクリート型枠剥離剤を塗布してい たところ、混合機内に転落した。	40301	50～ 99
2011	11	18 ～ 19	自社の整備工場内で自社の2tダンプトラックのクラッチ板を交換するため に荷台を上昇させ、荷台昇降用オイルポンプを外している最中、何らかの理 由により荷台が降下してきたのに気がつかず、事業者が現状を発見した時点 で車体フレームと荷台との間に首をはさまれて意識がない状態で発見され たもの。（一人作業のため推定）	30199	1～9

2011	12	6 ～ 7	資材置場から会社所有のトラックで工事現場に向かう際、トラックの前輪に掛けていた輪止を外し忘れていたことに気付き、トラックから降りて輪止を外したところ、トラックが逸走し、トラックの下敷きとなった。	30107	1～9
2011	2	13 ～ 14	被災者は、ダンプトラック（最大積載量10トン）で砂利運搬作業に従事していた。午前11時半頃4回目の運搬のための積込み後に、プラント敷地内において昼休憩を取った。午後12時過ぎに他の運転手が被災者のダンプの荷台が中途半端に上昇した状態になっているのを目撃している。午後1時になっても出発していないのを不審に思った同僚がダンプを見たところ荷台と車体に頭部を挟まれて被災しているのを発見したもの。	40301	1～9
2011	6	6 ～ 7	被災者は10トンダンプの右側前輪後方にあるマフラーの取付け金具の交換作業を行なうために事業場に隣接した車庫内に当該ダンプを入れ停止、作業空間確保のため、前輪を右に切ろうと、車外からエンジンを掛けたところ、ダンプが右側に約2.3メートル逸走し、被災者は、ダンプと車庫の間に胸部を挟まれ、死亡した。なお、現場の斜度は0度（水平）であった。	40301	1～9
2011	9	11 ～ 12	被災者は、ごみ焼却施設のプラットホームで、機械式ごみ収集車で運んできたごみを施設のごみピットに棄てる作業の補助として従事していた。テールゲートを上げた状態でピット内にごみを棄てた後、運転手が被災者から合図を受け、テールゲートを下げたところ、被災者の上半身がテールゲートとごみ収集車との間に挟まれた。そのため運転手がテールゲートを上げたところ被災者がごみピットに墜落し死亡したもの。	150102	1～9
2010	11	13 ～ 14	依頼主（不動産業者）敷地の廃材等撤去作業において、敷地前面の道路（傾斜約7度の下り坂）に2台のトラックを縦列に駐車したところ、坂道の上手に駐車したトラックが駐車ブレーキが不十分であったため動き出し、下手のトラックの荷台後方にいた被災者がトラックの間に挟まれて、圧迫され死亡した。	150103	30～ 49
2010	11	3 ～	コンクリートミキサー車のエンジンがかかった状態で、固化したモルタルのはつり作業を担当していた被災者が、上半身をドラムに入れていたところ、ドラムが回転したため、ドラムマンホールと車体の手すりの間にはさまれた	30102	10～ 29

		4	もの。		
2010	11	14 ～ 15	産業廃棄物処理業者の構内において、被災者がゴミ収集運搬車（パッカー車）で運搬してきた空缶を降ろす作業中、テールゲートの回転する鋼板に全身を巻き込まれたもの。テールゲート内に詰まっていた空缶を取り除く際に誤って作動スイッチを押したとみられる。	140101	1～9
2010	10	15 ～ 16	整備士から１０ｔダンプトラックの左後方のテールランプとバックランプの修理をしてほしいと頼まれたことから、被災者がテールランプの裏側の隙間に体を入れて配線の状態を確認していたところ、バックランプに通電させようと変速ギヤをバックに入れた状態で整備士がトラックのエンジンキーを回したため、トラックが急に後退し、被災者はトラックの左後輪に轢かれて被災したもの。	11701	1～9
2010	9	13 ～ 14	被災者が同僚１名とゴルフ場に設置させている作業道路（坂道）の路面補修作業を行っていた。坂の上に被災者と同僚が乗ってきた２ｔトラックを停車させ、路面の補修作業を行っていたが、強風等の影響で無人の当該トラックが坂道を下り出し、被災者と同僚がトラックに轢かれ、被災者がトラックの下敷きになったもの。ブレーキをかける等の逸走防止措置が不十分であった。	140301	30～ 49
2010	9	11 ～ 12	事業場構内において、空荷のトレーラーとトレーラーの間（約３．３ｍ）にトラック（最大積載量１３．９ｔ）をバックで駐車させるため、被災者はトラック後方で誘導を行っていたところ、切り返しのために前進したトラックの荷台部分とトレーラーの間に挟まれ死亡したもの。トラックに積まれていた廃材が荷台からはみ出ていたため、当該廃材を荷台上に戻そうとしてトラックに接近したらしい。	11701	30～ 49
2010	9	11 ～ 12	リサイクル工場内にてパッカー車内のゴミの排出のため、パッカー車の後部のホッパを開け、排出板にてゴミの排出を完了し、助手作業員の被災者が排出板の掃除を終え、運転手に合図をし、運転手が運転席にある操作レバーでホッパを閉じる時に、被災者がゴミが残っていると思ってホッパ内に入った	150103	10～ 29

			ため、挟まれて死亡した。		
2010	8	9 ～ 10	山中の竹林において、被災者が2 t ダンプトラックに積んだ筍用の肥料を荷台を傾けて降ろしていたところ、傾斜地であったため当該トラックが転倒し、運転席から降りて荷台を操作していた被災者が下敷きとなったもの。	60101	1～9
2010	7	7 ～ 8	工事用看板を設置するため道路脇に2 t ダンプを止めて作業中、停車していた同ダンプが動き出したことから被災者が同ダンプを止めようと車外からハンドルの操作をしたところ、体が同ダンプの下に入り、後輪で腹部等を轢かれ死亡したもの。なお、現場道路は4～6度の勾配がついていた。	30199	1～9
2010	7	12 ～ 13	重機を積んだトレーラーが事業場の敷地から道路へ出る際、被災者は路上で誘導した。道路上に出たトレーラーが前進した際に荷台に飛び乗ったところ、過って荷台と後輪の隙間に巻き込まれ死亡したもの。	40301	1～9
2010	5	9 ～ 10	海岸高潮対策工事現場にて、交通誘導警備に従事していたところ、砂を積んだダンプカーの後進誘導を行った後、ダンプカーの死角に入り込み、ダンプカーの右側後輪に巻き込まれ、即死した。	170201	50～ 99
2010	4	3 ～ 4	トラクター（牽引車）をトレーラー（被牽引車）に連結した後、トラクターからトレーラーにエアブレーキ用ホースを接続したところ、同車両が前方に逸走したもの。発見時、同車両は前方の別のトレーラーの側面に斜めに接触した形で停車しており、被災者は同車両の運転席側ステップに足を掛け、開いた同側ドアに挟まれた状態であったことから、被災者は逸走した同車両を止めようとその運転席に乗り込もうとして被災したと推測される。トラクターのサイドブレーキは掛けられておらず、エアホースの接続により圧縮空気が送気されたため、ブレーキが解放されたとみられる。	40301	10～ 29
2010	3	12 ～ 13	トレーラーのトラクター（牽引車）とシャーシ（被牽引車）の接続作業のために、トラクターの上に乗り作業を行っていた。接続作業を行うため駐車していた駐車場がゆるやかな下り勾配であったため、トラクターが動きはじめた。被災者は慌ててトラクター部分から飛び降り、運転席に乗り込もうとしたところ、隣に駐車していたトレーラーと接続作業を行っていたトラクターに体を挟まれ死亡した。トラクターのサイドブレーキが引かれていなく、	40301	10～ 29

			シャーシーのブレーキは接続作業を行うために解除された状態だった。		
2010	3	10 ～ 11	土砂採取場内において、土積み込み待ちのために勾配5度の坂道に停車していた10tダンプトラックがサイドブレーキの引きが弱かったため突然後退し、右前輪に被災者の頭部がはさまれ死亡したもの。待ち時間を利用して荷台に付着した土の除去作業を行っていた被災者が、動き出した10tダンプトラックを止めようと荷台から降りたところ、ひかれたものとみられる。	30107	50～ 99
2010	3	14 ～ 15	被災者は、ユーザーから預かったトラック（最大積載荷重2t、積載型トラッククレーン）の車検を受けるため、予備車検場へ持込み予備検査を行っていた。コーナーランプの電球を取替えていた際、停車中の積載型トラッククレーンが後退したため、両手で止めようとして積載型トラッククレーンの後部と建物との間に挟まれ、死亡した。逸走防止措置を講じていなかった。	11701	1～9
2010	3	11 ～ 12	サッカーの試合時に使用する広告用の看板を搬入するためのトレーラの誘導を競技場入り口のスロープにて行っていたところ、トレーラ運転者が車両周辺での安全確認を怠り、当該通路の壁とトレーラーの間に挟まれたもの。	90209	10～ 29
2010	3	16 ～ 17	被災者は、同僚の労働者と2人でフォークリフトで運ばれた段ボール箱をゴミ収集車へ積込む作業を行った。段ボールの積込み作業がほぼ終了したため、同僚はフォークリフトを移動させようとしていたところ、被災者の悲鳴が聞こえた。同僚が確認したところ、被災者はゴミ収集車の回転板（回転しながらゴミを圧縮する板）に上半身を巻き込まれていた。被災者は頭部の負傷により死亡した。	150103	1～9
2010	2	22 ～ 23	道路舗装工事のためのアスファルト路面剥ぎ取り作業準備のため、道路内でスプレーによるマーキングを行っていた労働者（現場代理人）が、後退してきたダンプトラックの左後輪に轢かれ即死した。災害発生当時は、工事のため作業現場の道路は通行止めとしていた。	30106	1～9
2010	2	9 ～ 10	4tトラックの運転手が配送の途中で傾斜のある道路路側帯にトラックを停車し、荷台の後部扉を開けて積荷の確認をしていたところ、駐車ブレーキの引き方が緩く、トラックが後退したので荷台から飛び降り、トラックの下敷きとなった。	40301	50～ 99

2010	2	20 ～ 21	道路貨物運送事業場に、客先に発送する荷物を2 tトラックで持込み、受付事務所横のスロープに止め、トラックから離れ、受付で話をしている時に、サイドブレーキを引いておらずトラックが動き出した。この際、止めようとして、トラックとホームの間にはさまれたもの。	80109	1～9
2010	2	11 ～ 12	被災者は大型ダンプへの給油のため、会社から2 tローリー車で採石場に赴き、エンジンをかけたまま停車していた（運転手不在）。ダンプの右横にローリー車を乗りつけ、ダンプの前・後輪間にあるタンクに給油しようとしていた。その時、ダンプ運転手がダンプ左側からダンプの運転席に乗り込み、ハンドルを左に切って4 m程後退、さらに右に切って前進したところ、破損したローリー車と、倒れている被災者を発見した。ダンプに轢かれたものとみられる。	80204	1～9
2010	1	13 ～ 14	アパート新築工事現場において、同僚が4 t ダンプトラックを後進させたところ、トラックの荷台の後部とガスタンク置場のブロック塀との間に腹部を挟まれたもの。目撃者がいないので、災害時に被災者がどのような作業を行っていたかは不明であるが、災害の直前までは、ガスタンク置場のフェンスの設置作業を行っていた。	30202	10～ 29
2009	12	11 ～ 12	ガソリンスタンドでトレーラー（積載荷重24t）のトラクター部に給油作業中の被災者が、左側のタンクに給油後、右側のタンクへ給油するため同トレーラーの車体の下から給油ホースを通し、その給油ホースを取るために車体の下へ潜り込んだ時、同トレーラーが前進し右後輪でひかれた。	80204	1～9
2009	1	15 ～ 16	被災者は、タンクローリー（車両重量：3460kg、容量：軽油2907リットル積載）を運転し、一人で配達していた。客先のダンプトラックに給油するため、平均勾配4度の畦道に止めてあったダンプトラックの後方にタンクローリーを停車させ、エンジンを掛けたまま給油準備のためにタンクローリーの前方を歩行していたところ、タンクローリーが前方に動き、タンクローリーの前部とダンプトラックの後部の間にはさまれた。	80204	1～9
			テニスコート改修整備工事で余った残土を、元請が指定した残土置き場に、被災者が4tトラックで運搬作業を行っていた。この日、6回目の同作業を行		

2009	12	14 ～ 15	うために、被災者は残土を積み込み現場を出発し、約94m走ったところで、飲料水を買うためにトラックのエンジンを止め坂道に停車。飲料水を買おうとした時にトラックが動きだし、トラックの左前方と自動販売機に身体をはさまれ死亡した。	30199	1～9
2009	9	17 ～ 18	被災者が自社倉庫敷地内の出入口付近（下り傾斜、最大勾配10度）に3tダンプカーを一時停車して、運転席から降りて移動していたところ、突然、停車していた位置から動き出し、敷地前の市道を横切り、向かいの民家のブロック塀に達する際、回り込んで止めようとした被災者がダンプカーの車両前部とブロック塀の間にはさまれ、死亡した。	30110	1～9
2009	5	13 ～ 14	被災者は、大型トラックの後輪エアサスペンションのエアスプリングを交換するため、リモコンでエアサスペンションにエアを送り、タイヤと荷台との間隔を広げた後、運転席側の後部タイヤとフェンダーとの隙間に上半身を入れ、エアホースのネジを工具でゆるめたところ、エアホースからエアが抜け出し、荷台が下がりタイヤとフェンダーとの隙間にはさまれた。	11701	1～9
2009	5	11 ～ 12	自動車道のジャンクション新設工事に伴う延長300m、幅員8m（片側車線の幅員4m）のアスファルト舗装作業において、当該路上に居た被災者が、移動のため時速約20km/hでバックしてきた4tトラック（積載形トラッククレーン）にひかれた。	30106	10～ 29
2009	9	16 ～ 17	被災者は、2tトラックで回収してきた資材（木材の平板等）を手作業で積み卸したあと、同僚への連絡のため2tトラック前方を歩いていた。2tトラック（勾配約2度の傾斜地に止めていた）が動き出したため止めようとしたが、そのまま2tトラックに押されて、段差のある約1m下で2tトラックの下敷きになった。	150102	10～ 29
2009	8	14 ～ 15	野菜搬入のために商業ビルの業務用地下駐車場の受付で、トラックのエンジンのかけたまま受付手続きをした際、1階出入口付近に停車中の運送会社の2tトラックが無人のままスロープを下りだし、約40m先の曲がり角で壁に激突した。近くで交通整理をしていた警備員の被災者が壁との間にはさまれ、	150101	30～ 49

			死亡した。		
2009	1	9 ～ 10	作業場内において、トラックの解体作業中、トラックキャabinを約45度チルトアップ（傾斜）しているときに、急にトラックキャabin落下防止ストッパーが外れてトラックキャabinが落下し、被災者がはさまれた。	80109	1～9
2009	10	7 ～ 8	埠頭岸壁において、検問ゲートでの出入管理を行っているとき、構内で異状を発見してその方向に向かったところ、後進してくるダンプの後輪にひかれた。	170201	30～ 49
2009	7	7 ～ 8	スーパーマーケットのゴミ搬出口にて、ゴミ収集車のテールゲート内に被災者がはさまれた。当該作業を被災者は一人で行っていた。	150109	50～ 99
2009	5	13 ～ 14	午後の作業開始前に原石運搬用の10tダンプトラック（構内専用車両）の荷台をダンプアップし、荷台に安全ブロックを掛けて、ホイス部のグリスアップ作業を行っていた被災者が、荷台とホイスをつないでいたシャフトが破断したため、ホイス部が落下しシャーシとの隙間にはさまれた。	10909	10～ 29
2009	1	22 ～ 23	トラクター（トレーラー（台車）の牽引車）の運転者である被災者がトラクターを傾斜路に停止させ、作業のため降車したところ、トラクターが逸走し始めたので、被災者は逸走したトラクターを停止させるため、運転席に乗り込もうとしてトラクターの右前輪に巻き込まれた。	50101	30～ 49
2009	10	8 ～ 9	トラックの運転手が荷降ろし先の事業場付近でトラックのウイングルーフと荷台のアオリとの間に身体をはさまれていた。ウイングルーフの開閉ボタンは、トラックの車体最後尾にあり、被災者がはさまれていた位置からは操作できず、開閉ボタンを押している間のみウイングルーフが開閉するものであった。	40301	1～9
2009	2	15 ～ 16	車両運搬用のキャリアカーのエンジンルームタンク内のオイル交換作業をしていた被災者が、何らかの理由で荷台に上がったところ、シリンダーで上下に駆動するデッキが不意に作動し、デッキの間にはさまれた。	40301	10～ 29
			トンネル切羽近くで、ドラグ・ショベル旋回体後部と散水車の運転席右側後		

2009	8	5 ～ 6	部にはさまれた。被災者は単独で散水車を運転し散水作業を行い、トンネル切羽等の点検を行うため散水車から降車したが、その際に散水車のエンジンを停止せず、ギアもセカンドに入ったままであったことから、散水車が前方に動き出し、ドラグ・ショベルとの間にはさまれた。	30102	30～ 49
2009	7	13 ～ 14	被災者が自分のダンプカーを降りて、前のダンプカーの後部アオリのチェーンを掛けようとしたところ、後ろから動いてきた自分のダンプカーと前のダンプカーとの間にはさまれた。	30199	10～ 29
2009	11	7 ～ 8	事業場敷地内において、被災者は事業場を出発する前に貨物自動車（2tトラック）を事務所の前に停め、運転席から降りて、事務所脇にある自動販売機で缶コーヒーを購入していたところ、傾斜により貨物自動車が動き出したので、貨物自動車の前方に出て止めようとしたが止められず、倒れて地面と車体との間にはさまれた。	40301	10～ 29
2009	12	17 ～ 18	運転手はトレーラーをフェリーターミナルのトレーラー待機場所に後進で駐車し、車から降りてトレーラーの足を下ろそうとしたところ、左後方のタイヤ付近に被災者がトレーラーヘッド側に頭を向けてうつ伏せで倒れているのを発見した。被災者を病院へ搬送したが死亡した。被災者はフェリーに乗せるトレーラーの到着確認、保冷車の車内温度確認の業務を行っていた。	50202	30～ 49
2009	2	9 ～ 10	被災者は、運転手と二人でごみ収集の個別委託先であるホテルにおいて、可燃ごみの収集作業を行っていた。ごみ収集車のテールゲートを開けて可燃ごみを積込み、作業を終えたので、運転手が被災者に声をかけて運転席にあるスイッチでテールゲートを閉めた時に、悲鳴が聞こえたので、後部を見に行ったら被災者が倒れていた。	150101	100 ～ 299
2008	6	11 ～ 12	市道の側溝整備工事において、被災者はドラグ・ショベルでダンプの荷台上のモルタル用の砂をほぐす作業を行っていた。作業終了後、居合わせた警備員にダンプを前進させるように依頼した。ところが、誤って後退させてしまったため、ドラグ・ショベルから降りてダンプとの間にいた被災者がはさまれて死亡した。	30106	10～ 29
			整備工場内でダンプ用の油圧シリンダーの漏れを修理するために、トラック		

2008	2	13 ～ 14	の荷台を上昇させてホースを取り外す作業をしていた。整備工場内では高さ に制限があったためトラックの荷台が十分に上げられないので、荷台の降下 防止用に別の支柱を用い作業していた。その際、セットした当該支柱が外れ てトラックの後輪のところにいた被災者は、トラックのサイドバンパーと荷 台についているリアフェンダーにはさまれた。	11701	10～ 29
2008	2	11 ～ 12	コンビニの駐車場で駐車中の無人トラック（15t）が、後ろ向きに動き始め てコンビニ店舗前にいた被災者をひいた。	40301	50～ 99
2008	12	9 ～ 10	被災者は、歩道の舗装作業で使用する小型フィニッシャーの使用前点検を 行っていたところ、被災者の後ろから後進してきたトラック（4t）と小型 フィニッシャーにはさまれた。	30106	10～ 29
2008	11	18 ～ 19	駐車場整備工事現場において、現場の照明のためにエンジンを掛けて前照灯 を点灯したまま駐車していたトラックが、無人のまま前進し、前方で作業し ていた被災者がひかれた。トラックとドラグ・ショベルの前照灯を照明にし て作業しており、トラックは、ギアをニュートラルにしてサイドブレーキを 引いていたが、輪止め等措置は講じていなかった。	30199	1～9
2008	10	9 ～ 10	被災者は、同僚（運転手）とごみ収集運搬車（2tダンプトラック）を使用し て、資源ごみの収集作業を行っていた。その際、路上（坂道）に停車してい た無人の当該運搬車が前方に動き出したため、当該運搬車を止めようとした 被災者が付近の電柱と車両前方右角部分に身体をはさまれ死亡した。	150102	30～ 49
2008	2	10 ～ 11	被災者は荷降ろしのために傾斜地にトラックを停めてトラックの外へ出たと ころトラックが動き出した。それを止めようとしてトラックと共に10mの斜 面を滑り落ちてトラックの下敷きとなって死亡した。	40301	10～ 29
2008	12	13 ～ 14	コンテナトレーラーに乗務後の被災者らは、事業場内で前輪を架台（高さ約 20cm）に乗せた状態のトレーラー牽引車両の下に潜り、エンジンオイルの 交換作業を行っていた。このとき、別の作業者が当該車両のエンジンをかけ たところ、突然、車両が前進して約11m先に移動した。このため、車両の下 で作業していた作業員2名がひかれて1名が死亡した。	40301	10～ 29

2008	3	10 ～ 11	国道拡張による法面工事現場において、コンクリート法面の補修作業を行っていた被災者が、休憩するために休憩場所へ向かって移動していた時、土砂搬入のために後進してきたトラックにひかれて死亡した。	30106	30～ 49
2008	12	15 ～ 16	被災者が2tトラックで持ち込んだ枝切りりしたものを廃棄物処理場に荷卸した後、被災作業者が約15度の傾斜のある場所に運転席を下方にする状態でトラックを停車させて運転席から離れたところ、トラックが下方に動き出したため、運転席のドアを開け乗り込もうとした時、側壁に押されたドアと車体の間にはさまれ死亡した。	60101	0
2008	7	22 ～ 23	現場のガス管修繕工事が完了した後、被災者が3tダンプカーを運転して事業場まで戻り、坂道となっている道路にダンプカーを停めて事業場の門扉を開けたところ、無人のダンプカーが後進してきて門扉との間にはさまれてひかれ死亡した。	30309	1～9
2008	12	10 ～ 11	運送会社のトラック（14.7t車）を棟内に誘導していた被災者が、後進するトラックの後部と建物の鉄筋コンクリート製の壁との間にはさまれた。	80109	10～ 29
2008	3	10 ～ 11	容器・梱包用廃プラスチックの分別等を行う事業場で、屋外に駐車してあったダンプが動き出し、ダンプとリサイクル用プラスチック置場の鉄柱との間にはさまれて死亡した。	11709	10～ 29
2008	11	18 ～ 19	被災者は配送後、荷台の梱包材を廃材置場に下ろし、翌日配達分を積み込んだ後、所定の場所にトラックを停車させた。運転室内のあった梱包材を降ろすため、助手席側から乗車したところ、突然トラックが動き始めた。被災者は降車してトラック右前部を押して止めようとした。この様子を見た同僚も加わり2人で押したが停車せず、トラックに押されまま周辺に駐車中の別のトラック右前部との間にはさまれた。	40301	10～ 29
2008	7	11 ～ 12	トラック・バス整備工場において、被災者が大型観光バスの洗車をしていたところ、その背後からタンクローリーが前進してきて当該大型観光バスとタンクローリーの間にはさまれて死亡した。	11701	10～ 29

2008	1	16 ～ 17	道路舗装工事の現場において、被災者が単独で仮設の配水管の設置作業を行っていた際、ダンプトラックの荷台の下と車台（シャーシ）との間ではさまれているところを発見された。	30106	1～9
2008	6	12 ～ 13	被災者はパッカー車を運転してゴミ回収先から事業場の駐車場に戻り、サイドブレーキをかけてエンジンをかけたまま停車した。回収物を降ろすために運転席から車両後部に回ったところ、パッカー車が無人のまま後退して下敷きとなった。	80109	10～ 29
2008	5	9 ～ 10	工場内のテストコースにおいて、トレーラー走行時の振動騒音試験を実施中、部品の不具合があったため、試験技術担当の被災者は車体の下部分を点検をしていた。被災者が事務所に移動して打ち合わせしているものと思い込んだ運転者が、トレーラーを事務所に移動させるため動かしたところ、点検中の被災者をひいた。	11502	1000 ～ 9999
2008	12	9 ～ 10	ビル新築工事現場内において、配管設置のための掘削工事等を行っていた被災者が、配管部品を取りに現場内を移動していたところ、現場敷地内にバックで入ってきたトラックと建設中の躯体との間にはさまれ死亡した。	30199	1～9
2008	3	8 ～ 9	解体工事現場において、ドラグ・ショベルで解体したコンクリートガラをダンプに積み込んで搬送する作業中、荷台で作業していた作業者が地上に降りたところ、動きだしたダンプと建物外壁にはさまれて死亡した。	30209	1～9
2008	1	12 ～ 13	火力発電所放水路基礎杭移設工事ならびに関連除去工事において、警備業務の委託を受けている事業場の作業者が、地盤改良作業で発生する廃泥を搬出するタンク車の誘導作業を行っていたところ、バックで走行していたタンク車にひかれた。	170201	300 ～ 499
2008	5	11 ～ 12	被災者は、最大積載荷重が12.9tのウイング付き貨物自動車のウイング左前方のシリンダー付近からの油漏れの点検中にウイングにはさまれて死亡した。	40301	100 ～ 299
2008	10	7 ～ 8	被災者は郵便物をトラックで運送中、運転していたトラックの荷台の荷を確認していたとき、トラックが後退して被災者が当該トラックに巻き込まれて死亡した。	40301	30～ 49

2008	5	14 ～ 15	自動車部品を積んでいた2tトラックを駐車場所に誘導していたところ、転倒してトラックの後部ステップと壁の間にはさまれて死亡した。	80109	10～ 29
2008	8	7 ～ 8	農場の敷地内において、2tトラックAが故障したため、2tトラックBでけん引して約1.5m移動させて止めた。この時、被災者はAトラック、同僚がBトラックを運転していた。その後、Bトラックの運転手は、後方のAトラックが近づいてくるのが見えたため、後方確認を助手席の作業者に依頼した。助手席の作業者がBトラックの後部を見たところ、Aトラックの前部との間にはさまれている被災者を発見した。	70101	1～9
2008	9	6 ～ 7	被災者がタンクローリーを傾斜地（斜度8度）に停車させて汚水を積み込み（吸引）作業中、タンクローリーが後退し、後輪の下敷きになり死亡した。	150102	10～ 29
2008	9	9 ～ 10	被災者は跨線橋の道路舗装工事現場で既設アスファルト路面の切削作業終了後、当該作業終了地点側から約90m（上り勾配を）後進してきたアスファルト廃材運搬用ダンプトラックの左後輪にひかれた。	30106	10～ 29
2008	2	10 ～ 11	多量の降雪が続き駐車場に停めてあった貨物自動車（トレーラー）が雪に埋もれ自走できなくなったため、被災者はドラグ・ショベルのバケットのフックと貨物自動車の牽引用フックにワイヤロープを掛けて牽引した。牽引後、被災者が貨物自動車のワイヤロープを取り外そうとしたところ、貨物自動車が約6度の傾斜を逸走し、貨物自動車前面とバケットの間にはさまれて死亡した。	40301	1～9
2008	9	14 ～ 15	被災者は単独でコンクリートミキサー車のドラム内に付着したコンクリート片の除去作業を行っていた。作業開始約1時間後ミキサー車横でうずくまっている被災者が発見された。除去状況を確認していたところ、手元の操作レバーでドラムを回転させ、ドラム内の羽と内壁にはさまれ被災した。	40301	50～ 99
2007	3	12 ～	コンクリートミキサー車のドラム内部に付着したコンクリートをはぎ落とす作業が終わり、はぎ落としたコンクリートを排出させるためにドラムを動か	10901	10～ 29

		13	していたところ、被災者がドラムホールと車体の間にはさまれた。		
2007	9	11 ～ 12	被災者は3 tトラックに積んだ精米袋を降ろした後、事務所に伝票を届けようとトラックを駐車場に停めて一旦運転席から離れたが、サイドブレーキを引き忘れていたためトラックが突然動き出した。そのことに気付いた被災者はトラックにかけより、運転席のドアを開けサイドブレーキを引こうとしたが、トラックはそのまま前進し、18.3 m進んだところで右前部が電柱にぶつかり、被災者は運転席ドアと車体にはさまれ死亡した。	80209	1～9
2007	9	10 ～ 11	トレーラー荷台部分の屋根（ウイング）を開閉させる油圧シリンダーが油漏れするため修理していたところ、ウイング部分が下がり、荷台との間にはさまれた。	40301	10～ 29
2007	8	20 ～ 21	事業場の敷地内において、携帯電話の操作を行いながら、駐車場に向かっていた被災者が整備士の運転する10 tトラックにはねられた。	40301	50～ 99
2007	4	5 ～ 6	車庫の横に駐車していた4 tトラックにエンジンを掛けたところ、突然、車体が後退し、車体の右前方が車庫の壁に激突し、停車した。被災者は、激突した際、ドアと車体の間にはさまれた。	40301	10～ 29
2007	11	13 ～ 14	ダンボールの回収作業のため、パッカー車にダンボールを入れていて、テールゲートにはさまれた。	40301	50～ 99
2007	2	13 ～ 14	卸売市場内の廃棄物集積場において、廃段ボールを回収に来た業者のトラック（廃棄物収集車）が、段ボールの集積場に向かって後進中、付近に立っていた被災者をひいた。	150101	1～9
2007	10	10 ～ 11	1.5 t 積み箱型保冷車で牛乳を小学校へ配達するため、校内の荷物置場前に保冷車を駐車して運転席から降りたところ、保冷車が無人で逸走し、保冷車の前に回り止めようとした被災者が引きずられ死亡した。	40301	10～ 29
2007	8	15 ～	事業場構内に於いて、配送業者所有のトラック（3 t）が製品積み込みのため後進していたところ、左後方に駐車していた自社所有の保冷車（1.15	10109	30～

		16	t)の開放していた左側面扉に接触した。その弾みで扉が閉まり、保冷車に製品の積み込み作業を行っていた被災者がはさまれた。		49
2007	2	9 ～ 10	住宅地造成工事現場内の交差点中央付近で水道管設備の点検作業を行っていたところ、近隣の住宅新築工事現場に資材を搬入し、帰ろうとした2 t トラックにひかれた。	30110	1～9
2007	2	13 ～ 14	シャーシ置き場にて、運転手がトラックから降車して、トラックヘッドとコンテナを搭載するシャーシ部分の分離作業をしていた際に、トラックヘッドが動き出した。これを止めようと、運転手が運転席に乗ろうとしたが、動き出したトラックヘッドとトラックヘッド右前方に置かれていた別のコンテナ側部との間にはさまれた。	40301	10～ 29
2007	11	9 ～ 10	1人でLPガスボンベの配達（交換）を行っていたところ、顧客宅付近の空地（若干の勾配有り）に配達用のトラックを駐車して降りた際、トラックが後進して民家のブロック塀との間にはさまれた。	80204	10～ 29
2007	8	15 ～ 16	15 t 車で飲料水を配送途中、自動車道サービスエリアで、ウイングの扉を開け荷崩れの確認をしていたところ、スイッチに触れ、ウイングが閉まりはさまれた。	40301	30～ 49
2007	5	13 ～ 14	被災者は1人で商品の配送していた。トラックからの搬入が終わり、トラック後部の扉を閉じようとした時、傾斜地に停車させたトラックのサイドブレーキが十分効いていなかったため、トラックがゆっくりバックした。あわてて人力で止めようとしたが、商品搬入口のプラットフォームとトラック後部にはさまれた。	80109	1～9
2007	5	10 ～ 11	被災者は、トラックから荷を卸すため、運転席から降りていた。作業者がフォークリフトで積荷を降していたところ、突然トラックが動き出し、トラックの前で、ロープを片付けていた被災者がトラックと工場内の鉄柱との間にはさまれた。	150109	50～ 99
2007	9	17 ～	被災者は、駐車場でトレーラーのトラクターヘッドとシャーシの切り離し作業を行っていた。その際、トラクターヘッドが動き出したため、被災者はこれを止めようとドアを開け身体を乗り入れようとしたが、ドアが右隣に止め	40301	30～ 49

		18	てあったコンテナに接触し、ドアにはさまれた。		
2007	12	17 ～ 18	ダンプトラック（最大積載量11900kg）の荷台を上げ点検作業中、荷台が降下して車体との間にはさまれた。	40301	100 ～ 299
2007	7	19 ～ 20	車検を終えた散水車（車両重量6.5t）の車体フレーム内側の腐食状況を上司に確認してもらうため、2本の油圧シリンダーで構成される車両リフト装置（能力12t+12t）のシリンダーを上昇させ、車両を約55cmリフトアップしたところ、車両がバランスを崩し横転したため、右後輪側でリフト操作していた被災者が車両の下敷となった。	80202	100 ～ 299
2007	10	10 ～ 11	事業場構内のフェンス外構工事現場にて、休憩時間の飲み物を持ってきた被災者が、斜面（傾斜2度）にトラック（2tダンプ）を停め運転席から降りたところ、サイドブレーキが掛かっておらず、またギアもニュートラルであったため、車両が無人で動き出してしまった。被災者はこれを止めようと運転席に向かったが、動き出した車両にひかれた。	10909	10～ 29
2007	2	7 ～ 8	廃棄物リサイクルセンターにおいて、被災者（警備員）が始業前に場内の清掃作業にあたっていたところ、廃棄物の荷下ろしのため公道からセンター場内へバックで進入してきたダンプトラック（4t）が被災者に激突した。	170201	50～ 99
2007	3	16 ～ 17	研究所敷地内道路上にて積載形トラッククレーンとトラックを前後に並べて駐車し、足場材の積み込み作業を行っていた。足場材の積み込みが終了したので、トラッククレーンのアウトリガーを上げたところ、現場は勾配約5度の坂道であったため、トラッククレーンが後退し、積み込み作業を行っていた被災者が荷台の車両の間にはさまれた。	30209	1～9
2007	10	8 ～ 9	事業場が所有し、被災者が専用で使用していたダンプトラック（最大積載量2t）を被災者が事業場の敷地内で一人で点検をしていた。被災者から廃品を受け取るために来社した顧客が被災者がダンプトラックの荷台とシャーシの間にはさまれているのを発見した。	30209	1～9
		10	道路改良工事において、工事の際に発生する不要な土砂を残土仮置場まで運		

2007	4	～ 11	搬し、降ろす作業を2 tトラックの運転者である被災者が行っていた。被災者は残土仮置場で2 tトラックの車体と荷台にはさまれた状態で発見された。	30106	10～ 29
2007	8	6 ～ 7	積載荷重13 tのトラックで荷を運搬中、道の駅の駐車場において、積荷の確認のためウイングをあおりより約1 m上げ、積荷を確認し積荷から降りようとしたところ、足を滑らせウイングのスイッチに足が接触し、ウイングが不意に閉じたため、ウイングとあおりにはさまれた。	40301	30～ 49
2007	4	～ 14	被災者は同僚と2名で3 tトラックの荷台を昇降させるパワーアームの修理作業をしていた。修理にあたり、パワーアームの元に取り付けてある安全ピンを取り外すために荷台下部で作業中、荷台が落下し被災者を直撃した。	11701	1～9
2007	9	～ 18	被災者は、同社資材置場の門扉から12 m南側の敷地内でエンジンがかかったままのトラックの下敷きになり死亡しているのを同僚に発見された。車両積載形トラッククレーン（積載量2 t）を運転し、単独で資材置場に行き、一旦降車して当該門扉の鍵を開けようとしていたところ、傾斜のため当該トラックが動き出したためひかれたものと思われる。	30199	50～ 99
2007	2	～ 18	被災者は、林道災害復旧工事現場において、同僚とともに、翌日からの暴風雪予報に備えて資材等のビニールシート掛けの作業のため、2 tトラックで資材置き場の土場に移動し、作業を行っていたところ、停車していた当該トラックが約5度の緩やかな傾斜を逸走し、停車していたドラグ・ショベルと当該トラックとの間にはさまれた。	30199	10～ 29
2007	12	13 ～ 14	被災者は、荷台スライド式車両運搬車（2 tトラック）にトラクター・ショベル（機体総重量約3 t）を積み込み、定位置に荷台をスライドさせようと油圧レバーを操作したが油圧ではスライドできなかったため、荷台に装着されているウインチをトラクター・ショベル運転席側の車体にフックを掛け、荷台をスライドさせていたところ、荷台と運転席キャビンの間にはさまれた。	40301	1～9
		9	被災者は不整地運搬車の荷台前にあるつり上げ装置を使用し、ニンジン詰めた袋（1袋約400 kg）をトラックへ積み込む作業をしていた。12袋		

2007	10	～ 10	積み終わったときに、停車していたトラックが後方にゆっくり動き出したため不整地運搬車の荷台にいた被災者がトラックに乗り込んで止めようとしたが、トラック右側のドアと不整地運搬車のあおりの間にはさまれた。	60101	1～9
2006	11	13 ～ 14	被災者は同僚と2人で車庫においてキャリアカーのテールゲートのワイヤ取替え作業を行っていた。テールゲートを人力で支えて除々に降ろす作業中、ゲートを支えきれなくなりゲートが倒れてきて、ゲートと地面の間に挟まれた。	80109	10～ 29
2006	10	10 ～ 11	被災者は、建築工事現場の残土をダンプを運転して運搬する業務に従事していた。被災者は、ダンプの荷台の上がりの状態が悪かったため、荷台を上げた状態で荷台下のシャーシの上に上がり油圧系統等の状況を見ていたとき、荷台が降下し荷台とステップとシャーシの間にはさまれた。	30201	1～9
2006	12	21 ～ 22	トラック等の入庫・出庫管理をしていた被災者が、出庫前のフルトレーラーの被牽引車（後方台車）にひかれた。	170201	50～ 99
2006	9	14 ～ 15	水道管の布設工事で、管の布設後、埋め戻しを行うため、砂を積んだダンプトラックをバックで、ドラグ・ショベルに寄せているときに、ダンプトラックとドラグ・ショベルに挟まれた。被災者は、ドラグ・ショベルの運転者で、クレーン使用のドラグ・ショベルを使用しており、被災者は布設時に使用したクレーンのフックの格納作業を行っていた。	30110	1～9
2006	11	23 ～ 24	被災者は自走によりトラック（8 t）を陸送するため、午後5時ごろ金沢を出発した。午後8時ごろギヤの不具合を感じ国道の路肩にトラックを停車させ、車体の下に潜り修理をしていたところ車が動きだしプロペラシャフトに衣服が巻き込まれた。	40309	10～ 29
2006	11	11 ～ 12	一般家庭用不用品回収の為、被災者及び同僚の2名で民家庭先に2トントラックを駐車し、不用品の積み込みを行っていたところ、庭先から一般道へ続く坂道へトラックが後進し始めた為、被災者がトラック後部を押さえて止めようとして右後輪付近と民家敷地内に置かれていた石とに挟まれた。	80209	1～9
		13			

2006	11	～ 14	国道において、オートバイで新聞を配達していたところ、飲酒運転の乗用車に衝突された。	140301	50～ 99
2006	10	～ 17	学校の樹木の剪定作業を終了した後、剪定で生じた枝葉などの切りくずを4トンのトラックに載せて処分場に捨てに行くため、校門から道路に出たところ、ガードレールに車体の左脇部分が接触した。運転者があわててトラックを後退させたところ、校舎の塀とトラックの荷台後部とに被災者が挟まれた。	30199	1～9
2006	9	～ 12	ゴルフ場での道路整地作業中、2トントラックを下り坂のカート道に停車させ、被災者がトラックから降りたところ、トラックが動き出したので、被災者はトラックの運転席側の窓から体を入れ、止めようとしたが、22メートル走行した箇所でトラックに轢かれ仰向けに倒れているのが発見された。	30199	1～9
2006	10	～ 12	配送の準備のため、トレーラー（空コンテナ2台連結）を目的地まで運搬し、同僚が前部トレーラーの補助脚を立てた後、被災者が運転席を降り、カプラー（トレーラーとの連結）を外した所、僅かの傾斜でトラクター（運転台）が前に動き出したため、止めようと運転席のドアを開け乗り込もうとしたとき、ドアが建物の壁に当たり、ドアにはさまれた。	40301	10～ 29
2006	10	～ 12	解体現場建物内において、積載荷重3.3トンのトラックに廃材の畳を積み込み、トラックを移動させるときに、被災者は積んでいた畳が建物内の梁に当たらないことを確認するため、荷台の端部上に上がり、運転者が被災者と合図をしながらトラックを移動させていたところ、被災者が梁と畳に挟まれた。	30209	10～ 29
2006	9	～ 12	国道において、道路側面の除草作業中、刈り取った草を機械式ごみ収集車（パッカー車）投入口から積み込む作業を行っていたとき、機械式ごみ収集車（パッカー車）の回転板に挟まれた。	30199	50～ 99
2006	8	20 ～ 21	翌日の運行の準備のため被災者がコンテナに乗ったとき、サイドブレーキの引きが甘く、当該トラックが停車している場所に多少の傾斜があったため、トラックが後方に走り出し、被災者はコンテナから慌てて降りたが、	40301	50～ 99

			後方に走るトラックをよけきれずに、地面とトラック下部にはさまれた。		
2006	8	8 ～ 9	マンションの新築工事現場において、トラック運転手がトラックを移動させたところ、被災者がマンション1階階段の壁とトラックの荷台にはさまれた。	170201	10～ 29
2006	8	15 ～ 16	被災者が詰め所から約16m離れた事務所に歩いて向かう途中、詰め所前に被災者が停めていたトラックが後ろ向きに事務所に向かって動き出し、事務所前に停めてあったフォークリフトの後部と動いてきたトラックの荷台との間に被災者が挟まれた。詰め所から事務所までは約3.5度の下り勾配となっていた。	80109	10～ 29
2006	7	9 ～ 10	被災者は建設現場に仮設通路用の鉄板をポールトレーラーを使用して運送していたが、傾斜角5度の通路上でポールトレーラーのドローバーの短縮作業を行っていた際にトレーラー部が下方に滑ったため、トレーラー後部とドローバーとの間に挟まれた。	40301	10～ 29
2006	5	5 ～ 6	ゴミ置場の近く（緩やかな右カーブの下り坂）に、ゴミ収集車を停めてゴミを収集しようとしたところ、停車中のゴミ収集車が動きだしたため止めようとして、ゴミ収集車と民家のブロック塀の間に挟まれた。	150103	1～9
2006	4	10 ～ 11	工事用立て看板を設置するため、現場で位置決めをしていたところ、作業用1トントラックが後退してきて（勾配約6度）、トラックを静止しようとした被災者がトラックとガードロープの支柱に挟まれた。	30199	10～ 29
2006	3	15 ～ 16	商品搬入のため、坂道に車輛を駐車させておいたところ、その車輛が少しずつ後退してきたため、とっさに被災者が力で止めようとしたが止めきれず、さらにその後方にあった門柱との間に体が挟まれた。	80102	30～ 49
2006	2	16 ～ 17	木造倉庫を解体し、廃材の片付け作業のため、4トントラックに廃材を積み込む作業中、トラックの荷台への積載を容易にしようと、トラックを移動させるため後退させたところ、後方にあったドラグ・ショベル（解体のアタッチメントを付けたもの）とトラック後部の間に被災者がはさまれた。	30209	10～ 29
			工場構内通路（屋外）において、被災者がパレットに乗った荷を運ぶため、		

2006	3	8 ～ 9	フォークリフトの爪の幅の調整をしていたところ、工場内の設備解体工事の 廃材を搬出するために構内へ入場していたトラックが、バックで走行してき たため、トラック荷台の後部とフォークリフトのバックレストの間に挟まれ た。	11709	300 ～
2006	2	10 ～ 11	ワンボックスカー（最大積載量１０００ｋｇ）で宅配便の荷物を配達中、配 達先の事務所の前のスペースに当該車両を止め、荷を卸すため荷台に入った ところ、車両が動き出したため荷台から飛び降り車両を支えようとした。し かし、車両を支えきれず車両に押されて、事務所前の斜面を降り、道路を横 断し、工事現場のバリケードを突破し、現場にあった２５ｔラフテレーンク レーンのアウトリガーと当該車両との間に挟まれた。	40301	1～9
2006	2	9 ～ 10	建設工事現場に生コンクリートを納入するため、現場で立ち会っていた被災 者が、動いているミキサー車の後方で生コンクリートをポンプ車に流し込む ためホッパーの準備中にポンプ車とミキサー車との間に挟まれた。	80109	10～ 29
2006	2	9 ～ 10	可燃ごみの収集作業中、バックしてきたゴミ収集車の左後輪にひかれ被災。 作業は運転者と、被災者を含む収集作業員２名の計３名で行っていた。	150103	10～ 29
2006	1	15 ～ 16	廃車予定の軽貨物自動車から２本の後輪を取り外し、更にエンジンを取り外 すため、当該自動車の下に潜って仰向けの姿勢でエンジン周囲にある部品等 の取外しの作業中、車体後部を支えていた馬ジャッキが車体前方方向に倒 れ、これによって落下した車体後部のエンジン部分と地面の間に挟まれた。	80205	30～ 49
2006	1	13 ～ 14	被災者は、トレーラーに荷を積み込んだ後、車輛整備のためにエアサスペン ションで車体とタイヤの間に隙間をつくり、上半身を入れてブレーキ等の調 整作業をしていたが、エアサスペンションが突然破裂をした為、上げていた 車体下がってしまい、タイヤとの間ではさまれ被災した。	40302	100 ～ 299
2006	1	11 ～ 12	ゴミ収集車でゴミ収集作業にあたっていたところ、車が動き出し被災者が止 めようと立ちはだかったところ轢かれた。	150103	1～9
		14			

2005	5	～ 15	事業場の敷地内を歩行移動していたところ、後退してきたごみ収集車にひかれた。	170209	1～9
2005	9	～ 17	ダンプトラックの荷台をせり上げた状態でエンジン等の点検作業を行っていたところ、降下してきた荷台とダンプトラックのシャーシとの間に挟まれた。	30199	10～ 29
2005	7	7 ～ 8	資材置場でダンプトラックにグリスアップしていたところ、荷台後部のあおりと荷台との間に挟まれた。	30199	10～ 29
2005	3	～ 1	マンション解体工事現場において、廃材を運搬する貨物自動車のタイヤを洗浄するため当該貨物自動車の運転手に後退を合図した被災者が後退してきた貨物自動車と出入口のコンクリート壁との間に挟まれた。	30209	1～9
2005	3	7 ～ 8	フェリーの車両甲板において、被災者が牽引車（トラクター）で荷を積載した荷台（セミトレーラー）を牽引して船外に出るため、牽引車を荷台に連結した後、運転席から降りて牽引車と荷台をケーブルで繋ぐ作業を行っていた時、船員が荷台前方のアウトリガーを上げたところ当該車両が動き出しスロープ部分を暴走、被災者が止めようとして運転席に飛び乗ろうとしたが、スロープの手すりと牽引車との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2005	3	14 ～ 15	ダンプトラックの荷台を上昇させ、整備作業中、荷台が下降し、荷台とシャーシとの間に挟まれた。	11701	1～9
2005	9	11 ～ 12	工場横にコンクリートミキサー車を停車させるため、被災者が運転席側のドアを開けて後方を確認しながらバックさせていたところ、車両のドアと工場の壁が激突、そのはずみで運転席から投げ出され、壁と車両のドアとの間に挟まれた。	40302	10～ 29
2005	12	9 ～ 10	道路上にてダンプトラックの点検を行っていたところ、ダンプトラックの荷台を上げ下げさせる油圧ポンプに動力を伝達するシャフトに衣服を巻き込まれて被災した。	80409	10～ 29

2005	1	16 ～ 17	ダンプトラックで生コン車を現場まで先導し、生コン車を現場にバックで誘導するため、ダンプトラックから降り生コン車の方へ回り込もうとしたところ、ダンプトラックが下がってきた。これを見た被災者はダンプトラック後方に回り止めようとしたが、停車中のドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	30106	30～ 49
2005	6	16 ～ 17	灯油の配達のためローリー車を停車し、車から降りて作業にかかろうとした時に、無人の車が被災者の方へ逸走し、車の荷台と建物の壁との間に挟まれた。	80204	1～9
2005	8	15 ～ 16	清掃車を公園内に駐車するため、公園入口の車止めを外して清掃車を公園内に入れて一旦停車させ、運転席を離れて再び車止めの鍵を掛けようとしたところ、清掃車が動き出し、ひかれた。	150109	1～9
2005	10	8 ～ 9	自社車庫内において、コンクリートミキサー車の暖機運転のため、運転台のドアを開いて運転台に乗らずにキーを回したところ、ギヤが1速に入っていたため急に動き出して、運転台のドアが車庫内右側の壁に激突し、ドアと運転台との間に挟まれた。	20201	10～ 29
2005	10	13 ～ 14	茶畑において作業中、トラックの後方で下敷きとなった。	60101	1～9
2005	3	9 ～ 10	下水道工事現場において、被災者が交通誘導を行っていたところ、トラックが急に後進し、そばにいた被災者に接触した。	170201	30～ 49
2005	10	5 ～ 6	冷凍コンテナを運び出す作業中、コンテナと配電盤を接続していたケーブルを配電盤から離す際に、コンテナを積んだトラックが後進し、コンテナと配電盤との間に挟まれた。	40301	30～ 49
2005	8	8 ～ 9	トラックの荷台に向かって歩行中、他のトラックが後進してきて、2台のトラックの荷台との間に挟まれた。	30201	50～ 99
		15	住宅新築現場にダンプトラックで砂利を搬送し降車したところ、ダンプト		

2005	2	～ 16	トラックが動き出したため、後方に回り込んで止めようとした際、駐車していた他車とダンプトラックとの間に挟まれた。	30202	1～9
2005	2	7 ～ 8	運転席に乗り込まない状態で、暖機運転を行うためにトラックのエンジンを掛けようとした際に、ギアがリバースに入っていたままエンジンを掛けたためトラックが急発進し、隣に停車していたトラックとの間に挟まれた。	40301	10～ 29
2005	1	6 ～ 7	資材置場において、ダンプトラックから荷降ろし作業中、同車両が動き出し、勾配が10度の下り坂の途中付近で、車両右後輪でひかれた。	30199	1～9
2005	7	0 ～ 1	ダンプトラックの荷台を上げ、プロペラシャフト部にグリスアップしようとしていたところ荷台と下部フレームとの間に挟まれた。	30106	10～ 29
2005	8	16 ～ 17	駐車場内にある浄化槽の点検用の蓋を開け、内部をのぞき込んでいたところ、トラックにひかれた。	170209	10～ 29
2005	3	12 ～ 13	洗車場において洗車作業を行っていたところ、サイドブレーキの効きが悪く、洗車中のドラックが後方に下がってきて、後ろにいた被災者がコンクリート壁との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2005	10	6 ～ 7	高速自動車道舗装工事において、交通規制中の作業エリアを走行中のダンプトラックが中央分離帯付近の段差から脱輪したため、ドラグ・ショベルでけん引した。けん引後ワイヤロープを被災者が外していたところ、ダンプトラックが前進し、バケットとダンプトラックとの間に挟まれた。	30106	1～9
2005	10	18 ～ 19	リースしていたドラグ・ショベルを、運搬してきたトレーラーに載せたまま点検するため、ゆっくりと走行していたトレーラートラックに乗り込んだ被災者が、トレーラートラックの荷台と後輪との隙間に転落し挟まれた。	80409	1～9
2005	10	8 ～ 9	駐車場でトラックを清掃中、荷台を後方にスライドさせ運転席との間に隙間を設け、そこに立ってホースで水洗していたところ、前進してきた荷台と運転席との間に挟まれた。	40301	1～9

2005	11	17 ～ 18	トラック内に車のキーを閉じ込めてしまったため、車の窓のガラスコーナーのゴムに指を引っ掛けて、力を入れて引っ張っていたところ、指が外れた勢いで仰向けに転倒し、隣から発進した大型トラックの後輪でひかれた。	40301	10～ 29
2005	3	0 ～ 1	圧縮式ごみ収集車へのダンボールの積込み作業において、プラットホーム上からごみ収集車のホッパー内にダンボールを投入していたところ、作動中の回転板に巻き込まれた。	11709	10～ 29
2005	10	10 ～ 11	構内を詰所に向けて歩行中、バックで走行してきたトレーラートラックに激突された。	30201	50～ 99
2005	2	15 ～ 16	トラックの後方にて誘導中、バックしてきたトラックと停止させていた一般車両との間に挟まれた。	170201	100 ～ 299
2005	4	8 ～ 9	砕石プラントにおいて、ダンプトラックの荷台を上げて、荷台下のシャフトのグリスアップ作業をしていたところ、降下してきた荷台とフレームとの間に挟まれた。	20202	10～ 29
2005	3	13 ～ 14	工事現場に、車両積載形トラッククレーンに積載された鉄骨資材を搬入するため、坂道をブレーキを掛けながら下りていたところ、途中でブレーキが効かない状態となり、擁壁側で誘導していた被災者が、車体と擁壁との間に挟まれた。	30201	10～ 29
2005	10	10 ～ 11	排水処理場の汚泥を汲み取る作業で作業車を河川管理敷地内の斜路に停車し、右後輪に角材を車輪止めとして1つ取り付けていたが、作業車が後方に動き出し、タンクゲージの確認等のため車体の後方にいた被災者が作業車にひかれた。	150103	1～9
2005	6	9 ～ 10	トレーラートラックを移動し、後退させたところ、トレーラートラックの誘導作業に従事していた被災者がひかれた。	40301	50～ 99
		11	斜面（勾配4度）に停めてあったタンクローリーが突然動き出したため、タ		

2005	12	～ 12	ンクローリーを止めようとしたが、誤ってタンクローリーのバンパーと積み重なった岩石に雪が積もったものとの間に挟まれた。	40302	1～9
2005	4	15 ～ 16	ごみ収集車で収集後、埋立地に移動し、ごみを下ろした後で空になったごみ収集車のパッカー内部の洗浄を同僚がテールゲートを上げた状態で行い、その後、テールゲートを下げたときに、被災者がパッカーとテールゲートとの間に挟まれた。	150103	10～ 29
2004	8	14 ～ 15	工場の商品搬入口に保冷車をバックで停めて、店舗から運んできた箱を降ろした後、工場前の道路で保冷車の下敷きになっているところを発見された。	10104	10～ 29
2004	12	8 ～ 9	上水道管布設工事現場において、交通誘導を行っていた被災者は、材料等を搬入して来た2tトラックが、道路脇に置かれていたカラーコーンを車体の下に巻き込んだことに気付き、道路脇に停車したトラックの左前下部にもぐり込む格好でコーンを取り除く作業をしていたところ、発進したトラックにひかれた。	170201	10～ 29
2004	7	6 ～ 7	フェリーの車両デッキ内において、下船のため、トレーラーを前進させようとした際、後部台車のブレーキを解除していなかったことに気付き、トレーラーを下車して、後部台車のブレーキを解除したところ、トレーラーが動き出した。このため、被災者はトレーラーを止めようと運転席に行ったところ、ドアがフェリーの鋼製柱にぶつかり、しまったドアに挟まれた。	40302	30～ 49
2004	12	17 ～ 18	栈橋に停泊中のフェリーにトレーラーを積み込む作業中、トレーラーを切り離しトラクターのみで下船しようとしたが、ピンが外れておらず、トラクターを降りピンを外す操作をしたところトラクターが動き出した。急いで運転席に乗り込もうとしたところ、トラクターの運転席側が別のトレーラーに接触し、しまりかけたトラクターの扉に挟まれた。	40301	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	擁壁工事用のブロックを積んだ2 t 貨物自動車のブロック荷卸作業が一段落したので、当該貨物自動車を前進で移動さようとして発進させたところ、貨物自動車の左前側で水抜きパイプの切断作業を行っていた被災者に激突した。	30106	10～ 29
			コンクリートミキサー車のドラム内部の攪拌ブレードを溶接修理する前処理		

2004	11	15 ～ 16	としてドラムの中に入りブレードに付着したコンクリートをハンマーで除去していた被災者が、作業する個所を変えるためドラムを少し回すよう上司に依頼し上司が車外からエンジンを始動したところミキサー車が急にバックし、同時にドラムも回転したため、被災者がドラムの開口部と車体との間に挟まれた。	10901	10～ 29
2004	7	15 ～ 16	ダンプトラックに鉄製水槽（縦3.2m×横1.9m×1.6m、重さ約2t）を載せて、水の運搬を行った後、残った水を場内へ散水するため、ダンプトラック荷台後部に乗った被災者がダンプアップしながら移動する作業中に、ずり落ちてきた水槽とダンプトラックの後部扉板との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2004	1	7 ～ 8	汚泥運搬用のバキュームカーの始業前点検を運転手と被災者で行っていた際に、運転手が、タンク後部の油圧式で開閉するハッチを50～60cm開けてタンク内の汚泥の量を確認するためのフロートや、バルブの働きが正常であることを点検し、これを終えたためにハッチを閉じようとしてレバー操作したところ、被災者がハッチに挟まれた。	150102	30～ 49
2004	12	17 ～ 18	パッカー車から、荷降ろし場に収集したダンボールを降ろした後、テールゲート内に小さいダンボール屑が残っていたので、これを取ろうとしたときに、他の作業者がテールゲート内の回転板の起動ボタンを押したためテールゲート内に挟まれた。	80109	10～ 29
2004	3	9 ～ 10	車両積載形トラッククレーンのジブが、市道に突出し一般車通行の支障となるため、ジブの向きを前から横へかわすこととなり、エンジンを始動し運転席から降りた時にトラックがずるずると前進し、気を利かせクレーンのフックを外すため前にいた被災者がトラック前面と塀に挟まれた。	170201	10～ 29
2004	2	0 ～ 1	駐車場において、被災者と同僚の2名で、ゴミ収集車のテールゲートを開け、ゴミを取り除く作業を行っていたが、作業終了後、同僚がテールゲートを閉める際、テールゲートと車体の間に挟まれた。	150109	10～ 29
2004	2	10 ～	10 t トラックの修理作業中、車両後部のフデ塗りを行っている時に、他の作業者がそのトラックを移動する準備として、ブレーキ用のコンプレッサーにエアを溜めるためエンジンをかけたところ、ギアがバックに入ってお	11701	1～9

		11	り、10 tトラックがバックして被災者が金属製の棚との間に挟まれた。		
2004	3	8 ～ 9	構内において荷物配達先までの道順を同僚の運転手に教示してもらうため、前後約2mの車間を空けて停めた2台のトラックの間に地図を広げて、後車の運転手に道順を聞いた。話を終えて車に戻った後車の運転手が、別れた後も同じ場所にしゃがんで地図を広げていた被災者に気づかず、右にハンドルを切ってトラックを発進させたところ、前車の運転手である被災者はトラックに巻き込まれてひかれた。	40301	100 ～ 299
2004	6	23 ～ 24	国道管渠（下水道）築造工事現場において、交通整理業務を行っていた被災者が、工事現場内から掘削土砂を積み、仮置場に向かうため国道に出ようとした4tダンプトラックにひかれた。	170201	10～ 29
2004	2	11 ～ 12	工事現場で掘削した土をダンプカーに載せて4kmほど離れた残土置き場に運搬・処理していた被災者が、残土置き場内でダンプカーの荷台と車体フレームとの間に挟まれた。	30107	10～ 29
2004	12	11 ～ 12	車両修理のため2 t ダンプトラックの下に入り仰向けの姿勢でドライブシャフトを外していたところ、車両が自然に下り坂を下がったため右後輪でひかれた。	11701	30～ 49
2004	6	15 ～ 16	共同車庫（トレーラ置場）敷地内で、トラクタとトレーラを連結する作業をしていた被災者が、連結した際にランディングギアを巻き上げていたところ、当該車両（トラクタ、トレーラとも）のブレーキがしっかり掛かっておらず、また敷地が若干傾斜していたため、車両が動き出し、あわててその車両を止めようとしたときに、トラクタの左側タイヤに巻き込まれひかれた。	40301	30～ 49
2004	4	17 ～ 18	アスファルトフィニッシャーの運搬作業中、舗装工事現場近くの下り坂に停車したトラックにアスファルトフィニッシャーを積み込み、トラック横で積荷の確認作業中にトラックが動き出し、被災者がトラックの横を追いかけて走っているときにトラックの後輪に巻き込まれた。	40309	10～ 29
2004	1	0 ～	コンテナ着脱装置付トラック修理後の試運転中、被災者は、燃料タンクとサイドバンパーの間に立ち、オイルポンプの音を上から聞いていたところ、下	11502	1～9

		1	降してきたミドルフレームについているチルトセンサーに挟まれた。		
2004	11	7 ～ 8	工場入口に、ミキサー車を停止して車から離れ、資材を持ってミキサー車に戻ったところ、停止してあったはずのミキサー車が無人のまま動き出したので、ミキサー車の前に立ち自力で止めようとしたためミキサー車の下敷きになった。	10901	10～ 29
2004	2	0 ～ 1	車庫内において、ごみ収集車のタイヤチェーンの状態を点検をしようとしていた作業者が、横に停車していたごみ収集車のエンジンがかかっていたので近づいたところ、ごみ収集車後部の回転するパッカー（圧縮）部分で挟まれた。	150103	100 ～ 299
2004	3	13 ～ 14	工事現場に7t車で鉄板型枠を搬送してきた被災者が、荷降場所近くの下り勾配の路上に停車し、運転席から降りたところ車が動き始めたため、車前で押しとめようとしたが、そのまま下敷きとなった。	40301	10～ 29
2004	9	18 ～ 19	シャーシ置き場においてシャーシを縦に並べて駐車させる作業中、他の労働者が、トレーラーを後退させたところ、地上にいた被災者が、トレーラー後部とシャーシの間に挟まれた。	40301	30～ 49
2004	12	7 ～ 8	荷物をトラックの荷台に積み込む作業中、被災者がトラック後部荷台の扉を開け立っていたところ、同僚の運転手が被災者の位置を確認することなくトラックを後退させたためトラック後部と建物（ドッグシェルター）との間に挟まれた。	40301	50～ 99
2004	2	7 ～ 8	トラックへの荷積み作業中に、後退してきた車両とプラットホームに挟まれた。	40301	50～ 99
2004	12	3 ～ 4	トラックの、荷降ろしのため車外で準備中、突然車体が前進し始めたため、被災者はこれを止めようと両手で押さえたが止まらず、同車の前に停車していた別のトラックとの間に挟まれた。	40309	1～9
2004	1	14 ～	ダンボールを積載したパッカー車が、荷下ろし場所へ向かって、バックで進入した際に後輪で近くで作業していた被災者をひいた。	80109	1～9

		15			
2004	7	9 ～ 10	建物の外溝工事において、ダンプトラックを運転して土砂を現場へ運び入れ、所定の場所へバックで進入していたところ、そこで待機していた被災者が、ダンプトラックと建物の間に挟まれた。	30199	30～ 49
2004	3	13 ～ 14	車体重量32 t の鉱山用ダンプの修理作業で、車体下にもぐり修理をしていたところ、動いたダンプ右後輪にひかれた。	11702	10～ 29
2004	6	14 ～ 15	林道の用水路付け替え作業において、側溝敷設後、タンパーでの埋め戻し材の締め固め作業中、碎石を積んで後進してきた4 t ダンプトラックに激突され、タンパーとダンプトラックの左後輪の間に挟まれた。	30107	10～ 29
2004	6	7 ～ 8	バイクの積み込み作業中、トラックのパワーゲートの調子が悪いため、最上部で動かなくなったゲートにぶらさがったところ、突然ゲートが落下し、落下したゲートとトラック荷台の縁に挟まれた。	40301	50～ 99
2004	9	16 ～ 17	4tダンプカーに乗り帰宅しようとしたところ、近くに止めていたドラグ・ショベルの運転席ドアが開いていたため、乗っていたダンプカーを止めて、当該ドラグ・ショベルの運転席ドアを締めようとした際、ダンプカーが動き出し手で止めようとしたが、止めきれずダンプカーとドラグ・ショベルの機体の間に挟まれた。	80209	1～9
2004	8	8 ～ 9	電柱移設工事において、トラックを後退させようとしたところ斜面に止まっていたトラック（エンジン停止中）が徐々に前方に動きだし、トラック前方に回り込み停止させようとしたが停止させることができず、トラックとその前の建柱車に挟まれた。	30301	10～ 29
2004	12	20 ～ 21	フォークローダーを使用してトラック上の丸太を荷降ろしし、ローダーを所定の場所に置いたあと、トラックの向きを変えたとき、近くで作業をしていた同僚にトラックがぶつかった。	40301	10～ 29
2004	10	14 ～	トレーラーの積載重量を計量するため車両計測器にトレーラーを移動し、計量後トレーラーを前進させハンドルを左に切ったところ、近くにいた被災者	11209	10～ 29

		15	がトレーラー荷台後部と建物の外壁との間に挟まれた。		
2003	12	8 ～ 9	建設解体会社の資材置場で、4tダンプの運転席と鉄柱との間にはさまれた。	30209	1～9
2003	12	6 ～ 7	トレーラーで木材を運送し木材店の敷地にトレーラーをバックで入れようとしたところ、トレーラーの左後部車輪が道路脇の路肩からはみ出して脱輪したため、木材を運送してきた荷主がグラップルを操作してトレーラーの荷台から木材を降ろし始めたときに、トレーラーが左に横転し運転手がトレーラーの荷台の下敷きになった。	40301	10～ 29
2003	12	19 ～ 20	海上コンテナをトレーラーで運ぶ作業で、敷地内の空いてる場所へコンテナを置くためトレーラーと台車を連結するピンを外したときに、トレーラーが動き出したのであわてて運転席に乗り込もうとして運転席ドアと隣にあったコンテナとの間にはさまれた。	40301	10～ 29
2003	12	15 ～ 16	駐車場において、コンテナトレーラーのトラックから降車して、トラックヘッド部とコンテナを搭載したシャーシーの連結部の取外しを行っていたときに、トラックヘッドのサイドブレーキをかけていなかったため無人のトラックヘッドが動きだしたので、これを止めるためトラックヘッドに飛び乗ろうとして隣に停車していたコンテナとトラックヘッドとの間にはさまれた。	50101	1～9
2003	11	16 ～ 17	運送作業が終了したので土場でダンプ・トラックの荷台を上げ、荷台とシャーシーの間で充填器でグリスを充填しているときに、荷台が落下してきてシャーシフレームと荷台との間に頸部をはさまれた。	40309	10～ 29
2003	11	11 ～ 12	糞尿車2台を急な坂道に縦列に駐車させた状態で客先において汲み取り作業を行っていたところ、前方に停車していた車両が徐々に後退し、後方に停車していた車両との間でホースの片付けをしていた者が両車両の間に身体をはさまれた。	150103	1～9
2003	11	8 ～	ごみ収集車で最初のごみ収集地において補助者と2名で可燃ごみの投入を終えたのち、ごみ収集車の位置を移動していったんエンジンを切ったがゴミ収	150103	10～

		9	集車が前進で動き出し、車両の右前輪付近にいた者がひかれた。		29
2003	11	9 ～ 10	早朝パート（午前5時から9時）を終え、傘をさして駐車場の自分の車へ向かうため、工場敷地内の通路を歩行中に、バックで走行してきた配達用の3tトラックにひかれた。	10104	300 ～ 499
2003	10	8 ～ 9	トレーラーに積まれてコンテナ蔵置場に搬入されてくるコンテナに蔵置位置をチョークで書き込む作業を行っていたときに、先に搬入を終えて蔵置場から公道へ出ようとしていたトレーラーに牽引された空シャーシの後部と作業中のコンテナとの間にはさまれた。	50101	10～ 29
2003	10	11 ～ 12	杭工事で使用した資材を搬出するため、傾斜のある道路上に貨物自動車（11t車）を止めて資材を積み込み、荷締めを確認していたときに貨物自動車が後方に動き出し、貨物自動車の後部に止めてあった移動式クレーンとの間にはさまれた。	80409	1～9
2003	10	3 ～ 4	冷蔵冷凍車（大型トラック25t）で物流センターへ荷卸してホームから約5mほど前進させ停車し、冷凍車後部右側に立って開いている扉を閉めようとしていたところへ、トラック（2t）が冷凍食品を積もうとバックしてきたため、冷蔵冷凍車とトラックとの間に頭部をはさまれた。	40301	100 ～ 299
2003	9	5 ～ 6	トラックに荷物を搬入するため、搬入口に着けるため指定の搬入口前方でトラックから降りてトラック後方のパワーゲートを開いていたところ、トラックが前方に動き出したので前に回って押さえようとしたが止められず、後方にあった看板のポールとトラックとの間にはさまれた。	40301	100 ～ 299
2003	7	0 ～ 1	駐車場で運転していた2tトラックから別の車に乗り換えるため、トラックを車庫に止め同じ駐車場内に止めてあった別の車に向かって歩き出したところ、サイドブレーキを引き忘れていたトラックが駐車場の勾配で動き始めたので、トラックの前方に出て止めようとしたが止まらず、トラックと駐車場のひさしの柱との間にはさまれた。	170209	1～9
2003	7	10 ～	ドラグ・ショベルのバケットの交換作業中に、勾配4度の道路をエンジンをかけたままの無人のダンプトラックが後進してきて、ドラグ・ショベルとダン	30106	30～ 49

		11	プ・トラックとの間に頭部をはさまれた。		
2003	6	13 ～ 14	2tトラックをL型溝前面の掘削された道路脇に止めて碎石の埋戻し作業を行っていて、トラックを動かそうと運転席に乗りドアを開けたままエンジンをかけたところ、トラックが1mほど後退して運転席の脇にあった電柱にドアがぶつかったので、前進させようとアクセルを踏み込んだときに、運転席から転落し前進したトラックと電柱との間にはさまれた。	30106	30～ 49
2003	6	0 ～ 1	倉庫に保管していた配合飼料（牛の餌、500kgフレコンバック10袋分）をバルク車で牧場に到着し、サイロに入れるためバックで車を着けて車の後部に回りレバー操作を行っていたところ、傾斜地のため車がバックしてきて車のフレームとサイロのステーとの間に腹部をはさまれた。	40301	50～ 99
2003	4	21 ～ 22	接岸したフェリーからシャシー（トレーラーの荷台にあたる部分）を荷揚げする作業で、トレーラーヘッドとシャシーを繋いでシャシーの脚を巻き上げたのち、トレーラーの運転手に作業が終わった合図をするため移動していたときに、隣奥のトレーラーが動き出したため2台のトレーラの間にはさまれた。	50202	10～ 29
2003	4	14 ～ 15	2tトラックを事務所付近に停車させ、運転席から降りて納入先の労働者とトラック荷台の土砂を確認したあと、もう1台のトラックのところに行こうと歩いているときに、2tトラックが後方に動き出したため、後部あおりを両手で押えて止めようとしてひかれた。	30209	1～9
2003	4	16 ～ 17	4tトラックによる荷物の集荷業務を終了したので駐車場にトラックを駐車し下車したところ、トラックが右後方に動き出したため、隣に駐車してあったトラックとトラック運転席の側面との間にはさまれた。	40301	10～ 29
2003	3	2 ～ 3	夜間の道路舗装工事において、アスファルト合材を降ろすために後進してきた10tトラックの後輪にひかれた。	170201	1～9
2003	3	6 ～ 7	ドラグ・ショベルで排土を10tトラックへの積み込む作業中、傾斜地に停車していたトラックが動き出したので止めようとしたところ、トラックが横転し下敷きになった。	30106	1～9

2003	3	16 ～ 17	資材置場の入口付近で、入口の鍵を置こうとしていたときに、バックで資材置場に車両積載型クレーンが進入してきて、入口の壁と車両積載型クレーンとの間に頭をはさまれた。	30209	10～ 29
2003	2	21 ～ 22	米（12t）を目的地の倉庫まで運送し、入口フェンスを開けて構内に入ったのち、トラックを停車して開けた入口フェンスを閉めようとしていたときに、トラックが動き出してひかれた。	40301	10～ 29
2003	2	10 ～ 11	ゴミ運搬車からゴミをピット内に落とす際に、運転手が後部に他の者がいたことを確認せずにパッカーを動かしたため、頭部をパッカーにはさまれ、さらにピット内に転落した。	150109	10～ 29
2003	2	16 ～ 17	採石場のプラントの投入口で、20tダンプ・トラック（一人乗り）の荷台を上げて採石をプラントの投入口に投入し、荷台を下けたところ、近くにいた作業者が荷台先端部と運転席との間に頭部をはさまれた。	20201	10～ 29
2003	1	0 ～ 1	機械式ゴミ収集車（最大積載量2.75t）で古紙回収作業に出掛け、帰社時間になっても帰らないので、管理者が回収場所に出向いて収集車を調べたところ、収集車の内部で死亡していた。	80109	10～ 29
2003	1	15 ～ 16	10tトラックの荷台後部床面の腐食個所の鉄板張替作業後に、後部あおり（質量約150～200kg）と荷台床面との間に胸部をはさまれた。	150102	100 ～ 299
2003	1	20 ～ 21	4tトラックに積込み作業終了後、プラットフォームから離そうとした時に商品を落下させてしまったので、落下した商品を積込むためトラックを停めてトラックとプラットフォームの隙間に屈んだときに、サイドブレーキをかけていなかったためトラックが後進し、トラックとプラットフォームの間にはさまれた。	80109	50～ 99
2002	12	0 ～ 1	ごみ収集パッカー車の後部のテールゲートの機械に、脚部から背中中央部までを挟まれた。	150103	1～9
		11	15 t トラックに鉄筋13 t を積んでマンション新築工事現場に到着し、移動式		

2002	12	～ 12	クレーンで鉄筋を降ろしているときに、トラックが前方に動き出したので荷台上で玉掛け作業をしていた者が荷台から飛び降りてトラックを止めようとして、トラックと土手との間に挟まれた。	40301	50～ 99
2002	12	～ 10	廃車するトレーラーの部品（タイヤ、ミッション、燃料タンク等）を2m後方のトレーラーに移すため、前方のトレーラーのサイドブレーキをゆるめてタイヤに歯止めをしてジャッキアップしたところ、トレーラーが歯止めを乗り越えて後方へ動き出したので、止めようとして前方と後方のトレーラーの間に挟まれた。	11701	1～9
2002	12	～ 17	勾配（10度）の住宅の進入路にトラック（1.5 t）を停車し、後部ドアを開けて荷物を取り出そうとしたときに、トラックが後進して車体に巻き込まれた。	80109	10～ 29
2002	11	～ 5	コンテナヤードでトラクターをコンテナに連結して発車しようとしたが、コンテナのエア抜きバルブを開け忘れたため動かなかったので降車してバルブを開けたところ、トラクターのサイドブレーキをかけていなかったためトラクターが動き出し、止めようとして運転席に飛び乗ったときに、車体が右に寄って運転席の扉と隣に止めてあったコンテナとの間に挟まれた。	40301	10～ 29
2002	12	～ 15	水道連絡管布設工事において、ダンプトラックで残土を集積場所に運んで現場に戻り、次の残土を積み込むため後進していたときに、左後方でとんぼを用いて土均しをしていた者を後輪でひいた。	30110	1～9
2002	12	～ 11	現場近くの市道上（勾配6度）で、工事で使用された重機をトラックに積込んでいるときに、トラックが後方に自走したので止めようとしてトラック運転席ドアと道路沿いのブロック塀との間に挟まれた。	40301	1～9
2002	10	～ 15	自動車道の保全工事において、規制区域内で行っている樹木剪定、除草、排水溝・集水マス清掃等の安全確保のために旗振りをしていた者をバキューム車が巻き込んだ。	30199	30～ 49
2002	11	～ 16	下水道管布設工事において、簡易舗装のための碎石を2 t 積ダンプから投入しているとき、別の2 t ダンプで待機中の者が碎石投入中のダンプに近づき、下降してきた荷台と車体との間に挟まれた。	30110	10～ 29

2002	11	16 ～ 17	工事終了間際に、ドラグショベルのライトの前で作業日報を記入していたときに、4 tトラックがバックしてきたため荷台とドラグショベルのタイヤとの間に挟まれた。	30110	30～ 49
2002	11	16 ～ 17	下水管理設工事中において、振動コンパクターを使用して路盤碎石の転圧をしていたときに、後方から方向転換をするため後退してきた2 t ダンプと振動コンパクターのレバーとの間に挟まれた。	30110	100 ～ 299
2002	10	13 ～ 14	小売店の駐車場で、ごみ収集車で段ボールの回収作業中に収集車の回転板に上半身を巻き込まれた。	150102	10～ 29
2002	10	19 ～ 20	4 tトラックでコーンスターチ（袋物）の受け取りに来て積み込みが終了したが、その後も同じ場所に停まっていた夜になってトラックのドアと倉庫前の柱との間に挟まれているのが発見された。	40301	1～9
2002	10	0 ～ 1	ガソリンスタンドで保冷車に給油しその場で洗車を行っていたところ、保冷車が動き出して（エンジンは動いていなかった）道路を横断し堤防に衝突しそうなだったので、それを制止しようと保冷車の前方に回り込んで保冷車と堤防との間に挟まれた。	80109	10～ 29
2002	6	3 ～ 4	道路上でカーキャリアーに車を積込む作業で、カーキャリアーの上段に車3台積み込んだのち下段に積み込むため、上段床の昇降装置のボタンを押した状態で物を差込んで固定し、自動的に床部を上昇させながらカーキャリアーの左後部横から手を入れて上段部に積込んだ車の下側をフックで固定していたときに、上段の床の端部と車体の梁部との間に挟まれた。	40301	30～ 49
2002	9	15 ～ 16	7番ゲートの施検後に右隣6番ゲート担当者からR E S E A Lの作業方法を聞かれたので、タンク専用シャーシーの左後輪二軸の間に入り説明していたところ、ゲートクランクから発進の合図を受けたトレーラの運転手が発進したため、後輪に轢かれて転倒し両足を骨折した。	170209	50～ 99
2002	10	23 ～	トラックを駐車場へ駐車するため後退しているときに、何かにぶつかって乗り上げたような衝撃があったので運転席から降りて見ると、労働者がトラッ	30209	10～ 29

		24	クの下に横たわっていた。		
2002	9	14 ～ 15	住宅新築工事において、玄関先の外溝工事のため止めてあった2tトラックからスコップで碎石を降していたときに、トラックが突然後方に動き出し、トラック荷台のあおりと玄関先の柱との間に挟まれた。	30202	1～9
2002	8	16 ～ 17	現場作業を終えて帰社するため2 t トラックのエンジンを掛けて動き出したが、車止めがあることに気づいて車から降りて前輪の車止めを取り除いたときに、トラックが無人のまま動き出して轢かれた。	30108	1～9
2002	7	15 ～ 16	牛乳工場の商品搬送用プラットホームにトラック（3.9t）をバックで付け運転席から降りようとしたときに、トラックが下がったためトラックとプラットホームとの間に誘導者が腹部を挟まれた。	40302	30～ 49
2002	6	2 ～ 3	10tトラックを運転して国道を走行中、道路脇に停車して自動販売機を利用するためにトラックから降りたときに、サイドブレーキを確実に引いていなかったためトラックがバックしたので、トラックの後部に回って止めようとしたときトラックが路肩から脱輪しその下敷きになった。	40301	30～ 49
2002	3	9 ～ 10	ごみ収集車で一般家庭ごみの収集中、収集車後部のごみの投入口のステップ（幅約22cm）に立ち乗りして次の収集所へ移動して、運転手が収集場所に収集車を近づけるためバックで右旋回したところ、掴んでいた蓋が突然下に落ちたため反動でステップから落ち、後退してきたごみ収集車に轢かれた。	150103	30～ 49
2002	4	3 ～ 4	荷卸し作業が終了したので後部ドアを閉めようとトラックの後部にまわりこんだときに、サイドブレーキが完全に引かれていなかったため、トラックが後退しトラックとホームとの間に挟まれた。	40301	100 ～ 299
2002	3	13 ～ 14	交通安全施設（標識、ガードレール、カーブミラー）の新設・補修工事ではた廃材を積載型トラッククレーンへ積み込む作業中、移動するために積載型トラッククレーンを動かし始めたとき左前方車輪に接触した。	30199	30～ 49
2002	3	0 ～ 1	10 t トラックヘフォークリフトを用いて杉丸太の積み込作業中、トラックが後方へ動き出したのでフォークリフトを飛び降り後進を止めようとしてトラックの荷台と他のトラックの前部との間に挟まれた。	40301	1～9

2002	2	8 ～ 9	大型トラックを運転して製品等を運送途中、上り勾配の道路路側帯に駐車して車外に出ていたところ、トラックが後進を始めたのでトラックを追いかけ止めようとして運転席側のドアと近くにあった立木の間に挟まれた。	40301	10～ 29
2002	1	9 ～ 10	10tの貨物自動車にプラスチック容器を積み込んで搬送し、容器を降ろし公道に車を移動したときに、公道ガードレールと同車左側あおりとの間に首を挟まれた。	40301	10～ 29
2002	2	8 ～ 9	築堤工事においてダンプ車（10 t）の誘導をしていた者が、誘導を終えて納入伝票をもらう為に誘導場所からダンプの前面に移動したときに、ダンプに残った土を完全に落とすために動かしたダンプ車の左前輪に頭部と頸部を轢かれた。	30107	30～ 49
2001	10	14 ～ 15	トラックの点検整備で後輪(2車軸の前の車軸)をジャッキアップして車輻の下に潜り込み点検していたときに、ジャッキが転倒して車輻が後方に走行したため車輻に引きずられ下敷きになった。	40301	1～9
2001	12	6 ～ 7	国道に積雪があったため凍結防止剤散布作業を行っていたときに、2tダンプの後に取付けた砂巻き用の機械の中に凍結防止剤を入れるため荷台に載っていた者が徐行していたダンプの左後輪にひかれた。	30199	1～9
2001	9	10 ～ 11	ミニドラグショベルの運転席横の点検表の交換を行っていたときに、後進してきた積載量4tのダンプトラックの後部荷台とショベルとの間に挟まれた。	30106	50～ 99
2001	12	11 ～ 12	農業集落道路整備工事において、土砂を降ろしたのちダンプの運転手が荷台が下がらなくなったので現場から少し離れた場所に停車させていたが、暫くして現場代理人がダンプの方を見たところ上がっていたはずの荷台が下がっていたので駆け寄ったところ、荷台とフレームとの間に挟まれていた。	30106	50～ 99
2001	10	6 ～ 7	積載型トラッククレーンに鉄製品を積み納品先の近くで待機中に地盤がぬかるんでいたため身動きが取れなくなったので、国道のガードレールにトラッククレーンのブームを伸ばしてフックをかけ、巻き上げることによって脱出したが、脱出した道路が左下がり勾配になっていたため惰性で動き出したので慌ててトラックに乗ろうとしてトラックにひかれた。	40301	30～ 49

2001	10	8 ～ 9	4tトラックから鋼矢板60枚を降ろす作業が終わり、次の作業に移るため、4tトラックの後部とその後に駐車していたトラック(移動式クレーン付)の間を通り抜けようとしたときに、荷降ろしが終了したトラックが帰社しようとエンジンをつけたところギアがバックに入っていたため、4tトラックが40～50cm後退し、トラック(移動式クレーン付)と4tトラックとの間に挟まれた。	30110	10～ 29
2001	10	21 ～ 22	前日の夜フェリーターミナル到着のフェリーに積まれていた大型トラックのトレーラー部分(箱型荷台)を搬出するため、トラクターヘッド(運転席)とトレーラー部分とを連結しエアブレーキホースを接続したときに、船内が傾斜していたため大型トラックが逸走し、隣に停車中の大型トラックとの間に挟まれた。	40301	10～ 29
2001	8	9 ～ 10	個人宅の新築工事において、路盤の埋め戻しで2tダンプに積んだ砂利を溝に入れるため、ダンプ後方で誘導を行っていて、溝に砂利を降ろし終わったダンプに前進の指示を行ったが、運転手がギアの操作を誤って後退したため、ダンプの荷台とコンクリート擁壁との間に挟まれた。	30202	10～ 29
2001	9	8 ～ 9	工場の解体工事現場で、廃材を運搬するため敷地内の道路を後退していたダンプに作業者がひかれた。	30209	10～ 29
2001	7	22 ～ 23	2t車に荷の積み込みが終了したのでいったん前進して停車し後部扉を閉めていたところ、車が前に動き出したため車前部に回り車を押し止めようとしたがそのまま押されて前方に停車していた4t車との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2001	8	14 ～ 15	同僚運転者と2人で不用になった卵を車で運搬し事業場内の道路脇に掘った穴に廃棄したが道路がUターンするには道幅が狭かったため、同僚運転手は後進を始め、道路三叉路付近で荷台より転落したことに気づかぬまま後進を続け、車の後輪でひかれた。	70101	1～9
2001	6	11 ～ 12	工事区域内の道路上に2tダンプの前でケレン用具にビニールテープを巻いていたときにダンプが発進したためにかれた。	30106	1～9

2001	5	17 ～ 18	ダンプトラックの運転台をジャッキアップする油圧シリンダーのベアリングを修理するため、運転台をジャッキアップし、油圧シリンダーの取り付け部分を外して作業を行っていたときにジャッキアップした運転台が降下して挟まれた。	40301	1～9
2001	6	9 ～ 10	ゴミ収集車でごみの収集中に後部ホッパーの上部のステップで休憩していたところ、同僚がゴミを投入して積み込みボタンを押したため、その拍子にバランスを崩しパッカー回転部分に巻き込まれた。	150103	10～ 29
2001	5	8 ～ 9	ドラグ・ショベルで床掘りした残土をダンプトラックに積み込んでいるときに、トラック運転手が席から離れて作業を見ていたところ、ダンプが急に動き始めたので止めようとダンプに駆け寄り後輪の下敷きになった。	30108	10～ 29
2001	5	9 ～ 10	始業時の車両の洗車・整備でダンプカーの荷台アームのグリスアップを終えた同僚がアームの安全ブロックを外すためにエンジンを始動させた際にギヤがローに入ったままでサイドブレーキをかけていなかったため車両が前進し、前方でサイドバンパーの修理をしていた者が車両と自車との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2001	4	5 ～ 6	10tトラックのグリスアップのため荷台をあげて作業をしていたところ、安全ブロックなどを使用していなかったため、荷台が降下し荷台と車体との間に首を挟まれた。	40301	1～9
2001	4	16 ～ 17	国道の交差点付近で故障のため走行不能になった10tダンプカーの修理を行っていたところ、駐車場所が緩やかな登り坂の道路の路肩だったためダンプカーがゆっくり後退し、左後輪付近にいた者がひかれた。	80202	30～ 49
2001	4	17 ～ 18	工事の資材搬入に使用していたダンプトラックのあおりを閉じようとしていたとき、後進たためひかれた。	30110	1～9
2001	4	5 ～ 6	トラックターミナルにおいて、11tトラックから荷を降し、車両の後部でアオリを閉めて幌を固定していたとき、他の運転者が運転席に乗り込みエンジンをかけようとしてギアをニュートラルに切り換えたところ車両が後進し、車両の後部とプラットホームとの間に挟まれた。	40309	100 ～ 299

2001	4	7 ～ 8	工事の手直し作業に行くため、道具小屋からスコップを取り出して砂利を積み込んで行く小型ダンプのところに向かって構内を歩いていたところ、処分する古タイヤを積み込むために後退してきた重機運搬車(8t)の左後輪にひかれた。	30106	1～9
2001	4	12 ～ 13	園芸用植物を大型トラックで運送してきて荷を降ろそうとしたとき、荷卸口に他社の4tトラックが駐車していたので移動させ次に荷卸口に自車を移動させて運転席から降りたところ4tトラックが下がってきて自車との間に挟まれた。	40301	1～9
2001	3	4 ～ 5	路上に停車していた自らが運転していたトラック後部のパワーゲートと荷台との間に頭部をはさまれた。	40301	0
2001	4	7 ～ 8	納品のため2tトラックで来て駐車場の奥にトラックを止め、事務所で納品場所の確認して駐車場内を徒歩でトラックまで戻ろうとしていたところ、バックで駐車場に入ってきた別の納品業者の、4tトラックにひかれた。	40301	10～ 29
2001	4	13 ～ 14	駐車中の重機運搬用23tトレーラーの側面で打合せを行っていたときに、走行してきた重機運搬用8.5tトラックの荷台とトレーラーの荷台との間に腹部をはさまれた。	40301	30～ 49
2001	3	9 ～ 10	道路新設工事において、測量の補助作業をしていたときに、碎石を満載しバックしてきたダンプトラックにひかれた。	30106	10～ 29
2001	4	18 ～ 19	自動車整備工場において、フロントバンパーの取り替え作業を終了したミキサー車にナンバープレートを取る付ける作業を行っていたときに、他の者がミキサー車を移動させたためひかれた。	11701	10～ 29
2001	3	17 ～ 18	農道に11tトラックを停車してブルドーザーを積み込む作業を行っていたところ、道板からブルドーザーが路肩法面に滑り落ちたため、ブルドーザー運転手が車体を路上に戻すべく操作を行っている間に、トラック運転手が何らかの原因で前進したトラックにひかれた。(ブルドーザーの運転手が最後に	30106	1～9

			見たときには、トラック運転手は運転席にいた)		
2001	3	5 ～ 6	トラックから荷を卸すため後部の扉を開けようとしたときにトラックが動き出したので、運転席のサイドブレーキを引きに戻ろうとして、脇に駐車中の車とトラックとの間に挟まれた。	40301	1～9
2001	1	16 ～ 17	雨水管新設工事において、積載型小型移動式クレーンのタイヤが雪に埋まって動けなくなったため、ホイール式トラクターショベルでけん引することにし、けん引のためのワイヤ掛けをしていたときにトラックの運転手が自力で雪から脱出しようとして後進したため、トラックと停止していたショベルとの間に挟まれた。	30199	1～9
2001	1	16 ～ 17	農業集落排水管路工事において、同僚と道路上で測量作業中に、バックしてきた4tダンプトラックの後輪にひかれた。	30110	1～9
2001	1	23 ～ 24	道路舗装修繕工事において、アスファルト張り替えのための路面切削後の状況を計測していたところ、切削ガラの積込のため、同じ路面上を後進してきた10tトラックにひかれた。	30106	50～ 99
2000	10	17 ～ 18	無線基地局建設工事において、2tトラックを傾斜角約20度の仮設道路にトラックを駐車し、周辺に放置してあった資材を積み込むため運転席を離れたところトラックが仮設道路を下り出したため、それを止めようと運転席側を並走したが転倒し、後部車輪に巻き込まれた。	30199	10～ 29
2000	7	14 ～ 15	廃品置場で廃品の積み込み作業を行うためグラップルクレーンを搭載した4t積みトラックを廃品置場横の県道(下り勾配8度)に止めアウトリガーを張り出していたところ、トラックが斜面を下り始めたのでそれを止めるため運転席に乗ろうとしたが間に合わず9m下のH鋼製の門柱に激突し、門柱とアウトリガーのブームとの間に挟まれた。	150102	1～9
2000	6	17 ～ 18	現場での作業を終え使用した4tダンプを車庫に前向きに駐車し、エンジンを切って降車して車庫を出たところダンプが後方に動き出して、車庫から出てきたため、止めようと荷台の後ろにまわり付近にいて気づいた同僚とともにダンプ荷台を押したが止まらず、同僚は途中で逃げたが、運転者はそのまま	30199	10～ 29

			押しつづけ、後方に駐車していた車との間に挟まれた。		
2000	1	2 ～ 3	国道の歩道直下に光通信ケーブルボックスを埋設する作業において、路面を掘削し光通信ケーブルボックスの設置が完了した箇所をアスファルト等による舗装作業中に、後方からアスファルトを荷台に積んで後進してきた4tトラックにひかれた。	30199	10～ 29
2000	10	10 ～ 11	収集車で集めたゴミを焼却場へ投入し収集車のテールゲート(後部ハッチ)を締めたが、完全にロックされなかったため2～3回開閉を繰り返していたときに、収集車後部左側にいた者がテールゲート開閉部分に頭部をはさまれた。	150103	10～ 29
2000	5	20 ～ 21	4tトラックで冷蔵食品を輸送するためトラックの運転者席側のドアを開け地上に立った状態でエンジンを始動させていたところ、トラックが前進してドアが鉄柱に激突して閉まったためドアと運転者室との間に挟まれた。	40301	100 ～ 299
2000	2	10 ～ 11	花崗土採取現場において、ドラグショベルで花崗土を自分のトラックに積み込んでいたときにトラックが傾斜下方に動きだしたため、ドラグショベルを降りて、トラックを停止させようとトラックに駆け寄りトラックにひかれた。	40301	10～ 29
2000	10	15 ～ 16	ゴルフコースの法面に除草剤を散布する作業で、斜面(傾斜角約10度)に作業車を止めエンジンがかかった状態で作業車を降り、その後方に歩いて移動していたときに作業車が後退し、右後輪でひかれた。	140301	100 ～ 299
2000	8	13 ～ 14	国道沿いの草刈り作業を行っていて、草刈後の草を積みこむためパッカー車を後進させていたときに道路脇に立っていた作業員に接触し、そのまま後輪ひいた。	30106	1～9
2000	9	11 ～ 12	駐車していた生コンクリート車の生コンを入れるタンクと手すりの間に挟まれていたのが発見された。	10901	10～ 29
2000	8	23 ～ 24	塩乾物の保管を委託している事業場で同僚のトラックを待っていて、トラックが到着したので作業に使用するフォークリフトに向かって歩いていたときに敷地内でスイッチバックしてきた同トラックにひかれた。	80209	30～ 49

2000	2	23 ～ 24	登坂車線上においてタイヤチェーンの着装作業中に、車輛が降雪のため後方に滑り出したためりん木で歯止めをしようとしたときに足から腹部にかけてタイヤにひかれ、その状態で20～30メートル後方に滑って橋の欄干との間に挟まれた。	40301	10～ 29
2000	10	6 ～ 7	大型車両をホームに着けるため荷台の後部ドアを開けようとしていたときに、構内に入ってきた4t車が後を通り抜けようとして接近しすぎたため、自車と4t車との間に挟まれた。	40302	50～ 99
2000	4	16 ～ 17	木造家屋解体工事で、ドラグショベルを重機運送用台車の荷台に乗せたところ台車が後退し始めたので、停止させようと運転席に乗り込もうとしたときに、台車本体と運転席のドアに挟まれた。	30202	10～ 29
2000	10	12 ～ 13	大型トラック(25t・ウイング車)に飲料水を搬入するため営業所に到着、門扉を開け構内にトラックを乗り入れ、運転席から降りて門扉を閉めようとしているときにトラックが後進してきて巻き込まれた。	40301	10～ 29
2000	10	0 ～ 1	河川の護岸改修工事で、昼食後、工事で使用する割グリ石を積載した2tダンプトトラックの前のコンパネの上で寝そべて休憩していたところ、他の場所で同様に休憩していた同僚が私用のためダンプトトラックを前進させたためひかれた。	30107	1～9
2000	9	14 ～ 15	傾斜角約5度の荷物発送場にテールゲート付ごみ収集車を駐車し、ジュースの空缶等のごみ収集作業を行っていたところ、ごみ収集車が動きだしてごみ収集車後部とプラットホーム(高さ0.8m)の端との間に挟まれた。	150102	10～ 29
2000	7	15 ～ 16	情報ボックス設置工事現場において、埋め戻し後のアスファルト舗装の作業で埋め戻し箇所周辺に散らばった土砂をほうきで掃いていたときに、アスファルト合材を積んで後退していた4tトラックにひかれた。	30106	50～ 99
2000	3	7 ～ 8	トラクター(けん引車)とトレーラーを接続して出車する作業中に、トラクターが下がり出したため慌ててトラクターの運転席に飛び乗ろうとして右隣に停車していたトレーラーとトラクターとの間に挟まれた。	40301	30～ 49
		11	構内の道路で徐行中(時速5km程度)のトラック(9トン車)の下部に巻き込まれ		10～

2000	3	～ 12	た。	10804	29
2000	1	～ 12	11 リサイクル工場の前でリサイクルのために出した古紙のゴミを竹ぼうきで掃 除中に、リサイクル工場にある倉庫にバックで入ってきた4tトラックにひか れた。	10702	300 ～ 499
2000	1	6 ～ 7	2台のトレーラーに積まれたコンテナとコンテナの間で点検をしていたとこ ろ、一方のコンテナがヘッドとの接続時の反動で動いたためコンテナの間に 挟まれた。	40301	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	工場新築工事で、現場内に入っていた生コン車のタイヤについた泥を公道に 出る前に洗い流す作業をしていて、発進した生コン車にひかれた。	30201	10～ 29
2000	2	10 ～ 11	約700kgと約800kgの鉄板2枚づつを定格荷重2.9tの車輛積載形トラック レーンで運び、約800kgの鉄板を降ろすときに、降ろす予定位置にクレーン を近づけようとして近くに居た者を左後輪でひいた。	80409	1～9
2000	10	8 ～ 9	4 t 幌トラックで料金所に通行券を配送中、料金所で同僚が納品をしている 間に荷崩れがないかを見ようと荷台後部にあるパワーゲートの操作スイッチ を操作してパワーゲートを倒し、荷台の状況確認を行っているときにパワー ゲートとトラック荷台のあおりとの間に首を挟まれた。	40301	10～ 29
2000	4	11 ～ 12	トラック(積載荷重4t)のシャシー側面に補助用の燃料タンクを取付けるため トラックの下に入り作業を行っていたときに、他の者が後方に停車中のト ラックを移動するためにこの車輛を移動させたため、作業中の者がトラック の後輪の軸受けと作業床との間に挟まれた。	80202	1～9
2000	1	16 ～ 17	資材置場でダンプトラックの洗車が終り運転席に乗り込もうとしたときに、 突然ダンプトラックが前進し、半開きになっていた運転席側ドアが近くの門 柱に押されるような形となったため、運転席側ドアと車体との間にはさまれ た。	40301	10～ 29
		11	下水道管移設工事現場において、埋め戻しの土砂を運んでくるダンプを現場		100

2000	9	～ 12	内に入れるスペースをつくるため現場内を後進で移動中の2 tトラックに、 一般車両の誘導者がひかれた。	170201	～ 299
2000	1	0 ～ 1	船へコンテナを積込むため、専用トレーラーで運んできたコンテナをガントリークレーンで吊り上げ、コンテナの下部コーナーキャスティング部(コンテナを吊上げるため金具を挿入する穴)にオートロックコーン(上下のコンテナを連結する金具)を入れようと立っていたときに動き出したトレーラーの側面に接触して転倒し後輪に腹部をひかれた。	50202	30～ 49
2000	1	16 ～ 17	4tダンプトラックに碎石を積み後進でスロープ上を走行していたときに、走行範囲に立ち入った者をひいた。	30106	1～9
2000	11	18 ～ 19	運送ターミナルのプラットフォームの下で携帯電話をかけていたところ、プラットフォームにバックで進入してきた10t車の荷台後部とプラットフォームとの間に胸をはさまれた。	40301	30～ 49
2000	7	19 ～ 20	2トントラックを止めて運転席から降り、トラックの前方で同僚に声をかけたときに無人になったトラックが動き出し、トラックと搬入口との間にはさまれた。	40301	10～ 29
2000	2	8 ～ 9	塵芥回収車(パッカー車)に一般廃棄物を投入していて回転板に巻込まれた。	150103	10～ 29
2000	11	6 ～ 7	前日収集したゴミを駐車場内のゴミ置き場に降ろすために塵芥車を運転し始めたところ、駐車場内に止めてあった他の塵芥車やトラックに誤って車を擦ったため、擦り具合を確認めようと車を降りたときに自分の車が動き出したので慌てて車を止めようと車の前面に出たところを車にひかれた。	150103	10～ 29
2000	8	8 ～ 9	高速道路の路盤に使用するコンクリートを製造するプラント付近で、ブルドーザーで骨材を投入する準備をしているときに、碎石を運搬してバックで入って来たダンプトラックの車輪にひかれた。	30106	10～ 29
		18	傾斜地(下り勾配5度)でトラックにドラグショベルを積み込んだ後、前上り		

2000	2	19	の車台を戻すためトラックの側部でジャッキ下げの操作をしていたときに、 トラックが前進し、側にあった別のトラックの荷台との間に体を挟まれた。	150102	1～9
2000	5	11 ～ 12	2トンドンプトラックで農場へ堆肥を搬送する作業中に荷台の下に挟まれ た。	70101	10～ 29
2000	6	6 ～ 7	厚板工場の事務所の清掃作業に行くため自転車に乗って構内道路(幅8m)の左 端を走行中に、トレーラーにひかれた。	150101	30～ 49
2000	4	9 ～ 10	2t保冷車の修理の依頼を受け、客先で保冷車のエンジンをかけたままその下 に潜りクラッチを修理していたところ、車が突然動き出して後輪につぶされ た。	11701	1～9
2000	2	9 ～ 10	町道の改良工事で、バックホーを使ってはがしたアスファルトのくずを4tダ ンプに積み込んでいたところ、ダンプが後ろに動き出したので、それを見て バックホーの運転手が止めようと運転席から飛び降りダンプに乗りこもうと したときに積み残していたアスファルトのくずに足を取られ転倒し、その上 をダンプが走行した。	30106	1～9
2000	7	15 ～ 16	ずい道新設工事現場において、20tダンプをずい道内に止めて切羽に向う途 中、バックで進行してきた別の20tダンプにひかれた。	30102	30～ 49
2000	3	9 ～ 10	排雪場において、雪を捨てたダンプトラックの後輪が空回りして動けなく なったのでホイールローダーで牽引しようとダンプトラックの運転手とホ イールローダーの運転手2名でワイヤーロープの取り付け作業等を行ってい たところ、上部にあったダンプトラックが無人状態で斜面を下ってきたた め、2名がダンプトラックとホイールローダーの間にはさまれ、ダンプト ラックの運転手が死亡した。	30199	1～9
2000	3	17 ～ 18	会社の倉庫で2tダンプのプロペラシャフトに絡み付いているビニールを取り 除くため、ダンプの荷台を途中まで上げて荷台の下にもぐったときに、荷台 が下降し、荷台とシャーシーとの間に胸を挟まれた。	30209	1～9

2000	11	8 ～ 9	工事現場において、路盤整備の作業を行なうため現場内の道路上を歩いていて、同一道路上をバックで進入してきたダンプトラックの後輪にひかれた。	30106	10～ 29
1999	12	23 ～ 24	バイパスの切削工事において、切削クズを運ぶ空車の10tダンプが作業箇所 に近づこうと後進しているときに、出入口で作業車の誘導・監視を行っていた交通整理員がひかれた。	170201	30～ 49
1999	12	8 ～ 9	橋形クレーン(つり上げ荷重10. 2t)を用いて鋼材(重量約9. 8t)をトラック (最大積載荷重7t)の荷台に載せたところ、トラックがバランスを崩して横転 したため、トラックと地面との間に腹部をはさまれた。	11209	30～ 49
1999	12	13 ～ 14	資材置き場において砂利等をダンプトラックに積込んで待機していたときに 事業主が運転して後進してきたダンプトラックの後輪にひかれた。	30202	1～9
1999	12	14 ～ 15	舗装工事の検査のため同僚が運転するリフト車で現場に到着し、リフト車を 空き地に停めて、運転してきた同僚が近くの側溝でポリタンクに水を汲んで いた間にリフト車にひかれた。	30106	10～ 29
1999	12	9 ～ 10	道路脇の舗装復旧工事において、しゃがんで作業をしていた者を砂礫を運ぶ 4tダンプが前方を確認しないまま発車してひいてしまった。	30199	10～ 29
1999	12	9 ～ 10	トレーラーでアミノ酸を運んでいったん牽引車を切り離して駐車場で待機し ていたが、取出しが終了したので牽引車とトレーラーを接続するため、接続 用エアホースをつないだときに、突然車全体が動き出したので車を止める ため運転席に乗ろうとしたが、運転席のドアが工場内私道の脇にある鉄製の 支柱に押され、ドアと車体の間に胸部を挟まれた。	40301	10～ 29
1999	11	11 ～ 12	道路舗装工事現場において、10tダンプトラックからアスファルトを降ろし て、道路(道幅約3m)を前進したところ、道路横にいた者を左後輪でひいた。	30106	1～9
		18	前日に配送に出発し配送先を出て午後6時過に帰社する予定であったが、帰		

1999	11	～ 19	社しなかったため同僚が予定の運行経路を逆走しながら探していたところ、バイパスの駐車スペースで2tトラックのキャビンとエンジンにはさまれているのを発見した。	40301	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	橋上で路面舗装の作業をしていたときに、後進してきた10tダンプトラックにひかれた。	30106	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	幅約3メートルの農道にビニール管等を埋設する下水工事現場において、掘削溝に埋める土のうを積んだダンプ(4t)が農道上を掘削場所に向かって後進中に作業者をはねた。	30110	10～ 29
1999	10	10 ～ 11	事業所内において、トレーラーの荷台上で製品の寸法を計測中に、運転手がトレーラーを前進させたため転落し、トレーラーの後輪に巻き込まれた。	170209	1000 ～ 9999
1999	10	15 ～ 16	パッカー車で収集して来たダンボールを古紙ヤードに排出するため、パッカー車後部のテールゲートを開放して、油圧排出板を操作して排出を行っていたところ、ゲートのローター部に古紙が挟まったので、これを取るために車体とゲートの間に入ったときに、突然、ゲートが降下してきて胸部を挟まれた。	150103	50～ 99
1999	9	8 ～ 9	霊園造成工事において、25tキャリアダンプから土砂を下ろすため、荷台をあげたところボディと荷台との間に鉄筋が引っかかっていたので取り除こうとしていたときに、降下してきた荷台とボディとの間に右太股を挟まれた。	30199	1～9
1999	8	15 ～ 16	当該事業場は、鉄スクラップ等を回収して販売する卸売業を営んでいる。災害は、澱粉工場設備の改修工事が出た廃品の回収中で、リフティングマグネット付車両積載型小型移動式クレーンで鉄くずを同機に積み込んで20mほどバックしたときに、後方に居た者を左後輪でひいた。	80109	1～9
1999	2	14 ～ 15	資材・残土置場において、ストックしてある残土を移動させようとダンプトラックにドラグショベルで残土を積み込み、トラックを後退させていたときに、トラックの後方で残土の仕分け作業をしていた作業員がダンプトラックとドラグショベルとの間にはさまれた。	30199	10～ 29

1999	6	18 ～ 19	工場内において、4トントラックに荷を積んでいるときに、トラック後部のパワーゲートとかご車との間に胸部をはさまれた。	40301	10～ 29
1999	6	13 ～ 14	作業が終了したのでダンプカーに乗り込み発進したところ、そのすぐ前でしゃがみ込んでワイヤーの切断をしていた者に気づかず、ひいた。	30301	10～ 29
1999	6	14 ～ 15	早朝追突事故に遭った菓子パン配送用トラックから別のトラックに荷を移すため、トラックの後部をドッキングさせたが荷台に上がり降りするステップが曲がっていて作業性が悪かったので、トラックのステップ同志を擦りあわせるため荷台上で誘導していたときに、トラックの荷枠に頭部を挟まれた。	10104	1000 ～ 9999
1999	3	10 ～ 11	国道の舗装工事のため、デストリビューター(乳剤をまくための装置)を積んだ8トントラックをバックしながら移動中、作業者がいたのに気付かず後輪でひいた。	30106	10～ 29
1999	6	14 ～ 15	リサイクルセンター内において溶接作業を行っていた作業者が、自らが運転してきたトラックとドラグショベルのクローラとの間に挟まれて倒れているのが発見された。	11702	1～9
1999	5	10 ～ 11	下水道工事現場において、残土運搬用2tトラックの後部キャッチが半開きになっていたため閉めるようとエンジンをかけたところ、トラックが後退し、トラックと後に停止していたドラグショベルとの間に挟まれた。	30110	1～9
1999	5	7 ～ 8	自動車修理工場の前に停車した保冷車のエンジンを車外からかけたところ、保冷車が前進して修理工場に激突した際に保冷車のドアが工場入口の側面に押されて閉まり、ドアと車体との間に挟まれた。	40301	30～ 49
1999	4	9 ～ 10	駐車場内のごみ集積場所で危険物のごみを収集するため、ごみ収集車の助手席から降りて、車両の後方に回りバックの誘導を行っていたところ、後退してきた車の後部と電柱との間に腹部を挟まれた。	150103	10～ 29
1999	3	14 ～	ゲームセンターの営業を担当する者が、1つの店から他の店へ向かうため、従業員専用出入り口から店を出たときに、後進してきた納品業者の9トント	140309	1～9

		15	ラックにひかれた。		
1999	3	11 ～ 12	道路改良工事において、U字溝布設のためアスファルト舗装をコンクリート カッターで切断していたところに、近くで水道管の布設工事に従事していた 2tダンプカーがバックしてきて、背中をダンプカーの後部とカッターとの間 に挟まれた。	30199	10～ 29
1999	3	11 ～ 12	管渠布設工事のためダンプを運転して資材置場に砂を取りに行き、勾配約8 度の場所にサイドブレーキをかけて停車させ、パワーショベルに乗換えてダ ンプに砂を積み込んだのちダンプに乗ろうとしたときに停車させていたダン プが動き、パワーショベルのカウンターウェイトとダンプの荷台後方部との 間に頭部を挟まれた。	30106	1～9
1999	2	5 ～ 6	給油所に入ってきた10トントラックを後進で計量器の近くに誘導していると きに、後進させていたトラックの後部と給油所を囲う壁との間に頭部を挟ま れた。	80204	10～ 29
1999	2	14 ～ 15	車庫の中で、トレーラーヘッドに海上コンテナを搭載したシャーシを連結す る作業を行っていたときに、車体が動き出したためトレーラーのヘッドと隣 に置かれていた海上コンテナとの間に頭部を挟まれた。	40301	30～ 49
1999	1	10 ～ 11	県道の路面再生工事において、乳剤散布作業車による片側車線の散布が終了 したので運転者が車両を後退させたときに、一般車両の交通誘導中の者をひ いた。	170201	10～ 29
1999	2	18 ～ 19	工事現場の残土運搬作業で泥地にはまった4トンダンプカーをバックホーの バケットで押し出したときに荷台に穴があいたため、作業終了後、河川敷の 砂利ヤードで荷台を上げロック装置を施し、荷台の修理作業を荷台とキャビ ンの間に入り行っていたところ、荷台が降下して挟まれた。	30199	10～ 29
1999	1	11 ～ 12	同僚労働者と4トン貨物自動車のタイヤ交換作業をしていて左後輪タイヤを ジャッキアップしたところ、作業場所が約2度傾斜していたため自動車が逸 送し圧死した。	80204	1～9
		11	道路工事現場において、歩道部分にを敷く砂利を積載した2tのダンプトラッ		50～

1999	1	～		170201	99
		12	クを歩道上をバックしていたときに、誘導者をひいた。		

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。